えりも町人口ビジョン

令和３年３月

目　　　　次

１．基本的な考え方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
（１）はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
（２）人口ビジョンの改訂 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

２．えりも町の人口分析等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
（１）総人口の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
（２）世帯数と１世帯当たりの人数の推移 ・・・・・ 3
（３）年齢３区分人口の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
（４）地区別人口の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
（５）出生数・死亡数の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
（６）転入数・転出数の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
（7）人口移動の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
（8）性別・年齢階級別の人口移動の最近の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
（9）性別・年齢階級別の人口移動の状況の長期的動向 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
（10）出生数の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
（11）合計特殊出生率の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

３．えりも町の就労等に関する分析等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
（１）えりも町の産業人口 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
（２）産業人口の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
（３）年齢階級別産業人口 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

４．将来人口推計の分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
（１）総人口及び年齢３区分別人口の将来推計 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
（２）将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響度の分析 ・・・・・・・・・・・・・・ 28

５．人口の将来展望 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
（１）人口の現状分析等のまとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
（２）目指すべき将来の方向 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
（３）人口の将来展望 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35

１．基本的な考え方

（１）はじめに

我が国の人口は、2008 年以降減少傾向をたどり、今後加速度的に減少傾向が進むと予想されています。

出生率低下によって引き起こされる人口減少に歯止めをかけるともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持するため平成 26 年 11 月に「まち・ひと・しごと創生法」が制定されました。

同年 12 月、国は人口の現状と将来展望を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」（以下「国の長期ビジョン」）及び、今後 5 か年の施策の方向をまとめた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「国の総合戦略」）を閣議決定し、これを受けて各地方公共団体においても「地方人口ビジョン」、「地方版総合戦略」を策定することとされています。

えりも町においても、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」の主旨を尊重し、国、北海道と一体となって、まち・ひと・しごと創生の実現に向けて取り組んでいくため、「えりも町人口ビジョン」、「えりも町総合戦略」を平成 28 年 3 月に策定し、これまで各種施策に取り組んできました。

今回、第二期の「えりも町総合戦略」を策定するにあたり、「えりも町人口ビジョン」について、新しいデータを反映させた「えりも町人口ビジョン」の改訂版を策定することとしました。

（２）人口ビジョンの改訂

今回の人口ビジョンの改訂については、平成 27 年度国勢調査及びそれに基づく国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という）による「日本の地域別将来推計人口（平成 30 年推計）」等の最新データに基づき、えりも町の現状と将来の姿を示し、人口減少をめぐる問題について、町民と認識を共有するとともに、今後めざすべき将来の方向性を示すためのものです。

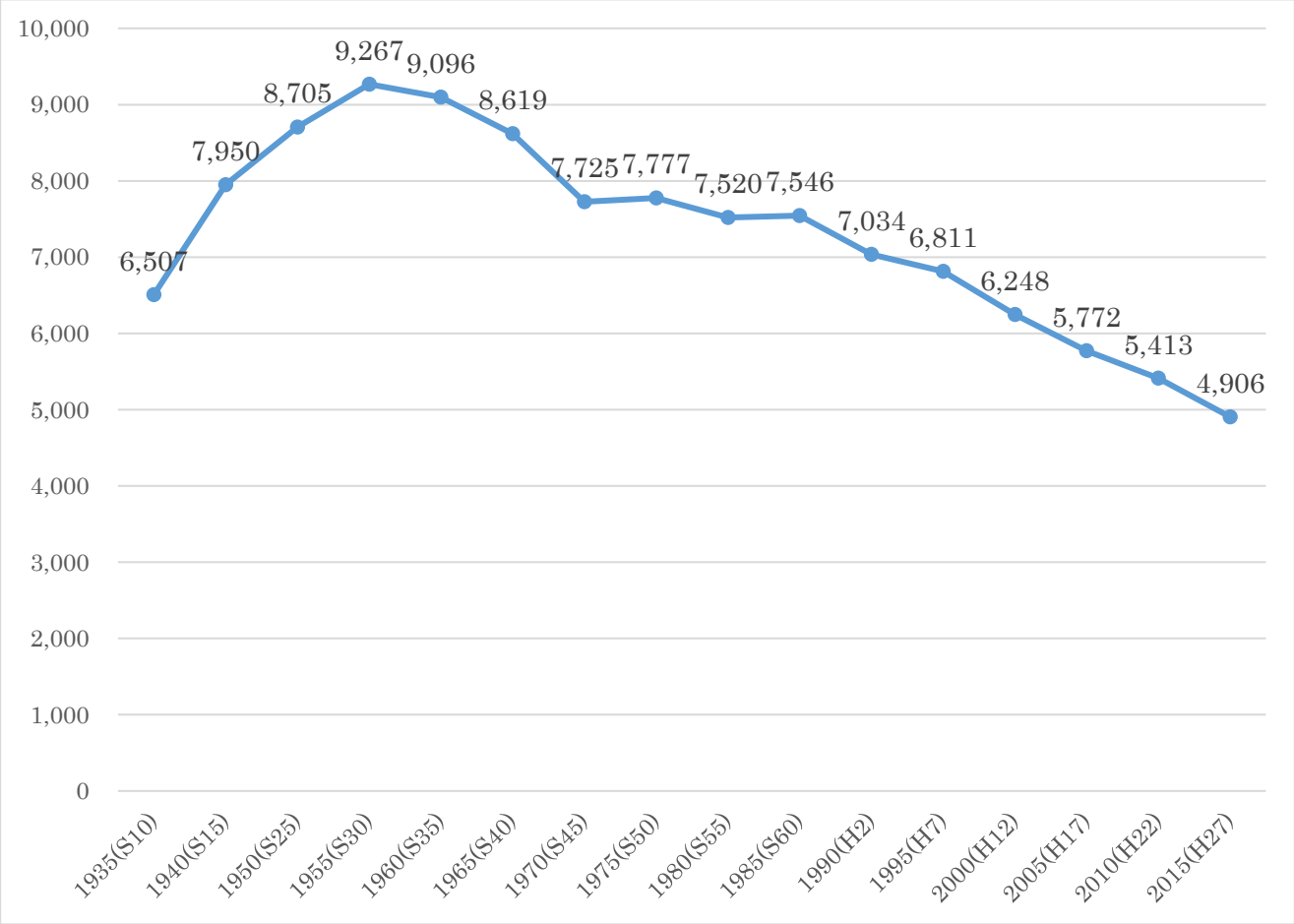
次期総合戦略における「まち・ひと・しごと創成」の実現に向けて効果的な施策を企画立案する上で、重要な基礎となることを認識し「えりも町人口ビジョン」の改訂を行います。

2．えりも町の人口分析等

（１）総人口の推移

えりも町の総人口は、昭和 30 年の 9,267 人をピークとして、昭和４５年に 7,725 人まで減少しましたが、昭和 50 年には 7,777 人と若干増加しましたが、昭和 50 年以降、減少傾向で推移し、平成２７年には 4,906 人となり、60 年で人口は半数ほどに減りました。この５年間の人口減少率は約 9.3%となっています。

図１　えりも町総人口の推移

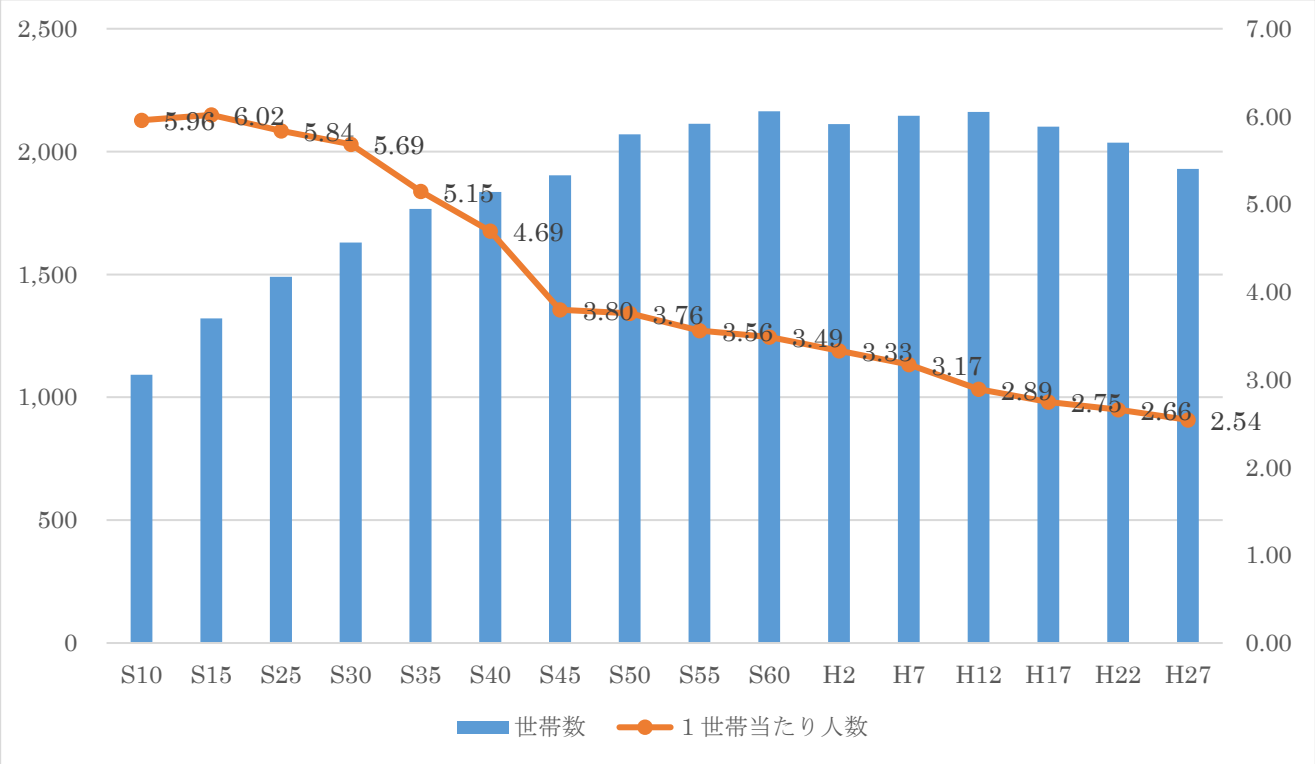


資料：国勢調査

（２）世帯数と１世帯当たりの人数の推移

えりも町の世帯数は、昭和 60 年の 2,164 世帯から平成 27 年には、1,929 世帯と 10.8%減少しています。人口減少に伴い、１世帯当たりの人数も減少しており、昭和 40 年まで４人を上回り、平成２年までは３人を上回っていましたが、その後も減少が続き、平成 27 年 2.54 人に減少しました。

図２　世帯数と１世帯当たりの人数の推移



資料：国勢調査

	総人口	世帯数	1世帯当たりの人数		総人口	世帯数	1世帯当たりの人数
S10	6,507	1,092	5.96	H2	7,034	2,112	3.33
S15	7,950	1,321	6.02	H7	6,811	2,146	3.17
S25	8,705	1,491	5.84	H12	6,248	2,161	2.89
S30	9,267	1,630	5.69	H17	5,772	2,101	2.75
S35	9,096	1,767	5.15	H22	5,413	2,036	2.66
S40	8,619	1,836	4.69	H27	4,906	1,929	2.54
S45	7,225	1,903	3.80				
S50	7,777	2,070	3.76				
S55	7,520	2,113	3.56				
S60	7,546	2,164	3.49				

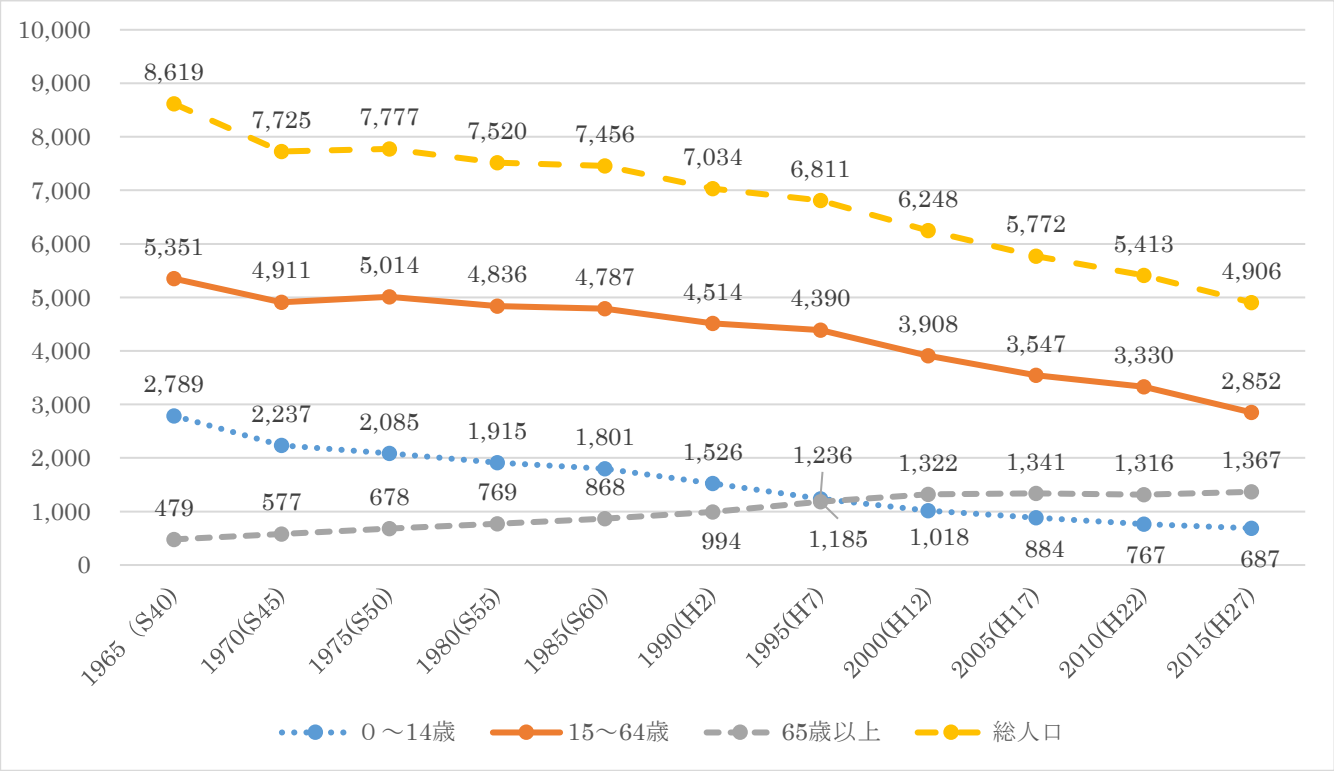
（３）年齢３区分人口の推移

年齢３区分別人口では、15～64 歳までの生産年齢人口は、昭和 40 年の 5,351 人から平成 27 年の 2,852 人まで減少傾向で推移しています。

また、14 歳までの年少人口も、昭和 40 年の 2,789 人から平成 27 年の 687 人と減少傾向にあります。

一方、65 歳以上の高齢者は、昭和 40 年の 479 人から平成 27 年の 1,367 人と、増加傾向にあり、平成 12 年以降、年少人口を上回って推移しています。

図３　えりも町年齢３区分人口の推移



	1965(S40)	1970(S45)	1975(S50)	1980(S55)	1985(S60)	1990(H2)	1995(H7)	2000(H12)	2005(H17)	2010(H22)	2015(H27)
0～14歳	2,789	2,237	2,085	1,915	1,801	1,526	1,236	1,018	884	767	687
15～64歳	5,351	4,911	5,014	4,836	4,787	4,514	4,390	3,908	3,547	3,330	2,852
65歳以上	479	577	678	769	868	994	1,185	1,322	1,341	1,316	1,367
総人口	8,619	7,725	7,777	7,520	7,456	7,034	6,811	6,248	5,772	5,413	4,906

資料：国勢調査

年少人口（0～14 歳）が総人口に占める割合は、昭和 40 年では 32.4%でしたが、平成 27 年には 14.0%と大幅に減少しています。

生産年齢人口（15～64 歳）については、昭和 40 年から平成 22 年まで 60%を超えていましたが、平成 27 年には 58.1%に減少しました。

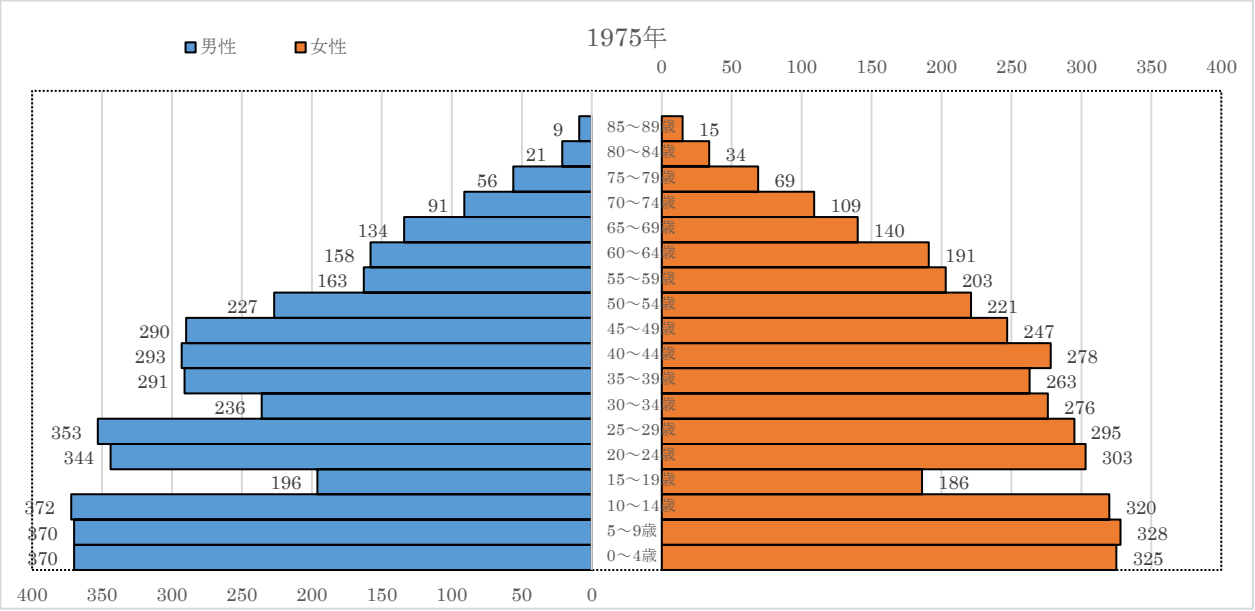
高齢者人口（65 歳以上）は、昭和 40 年はわずか 5.6%でしたが、平成 27 年には 27.9%と大幅に増加しています。

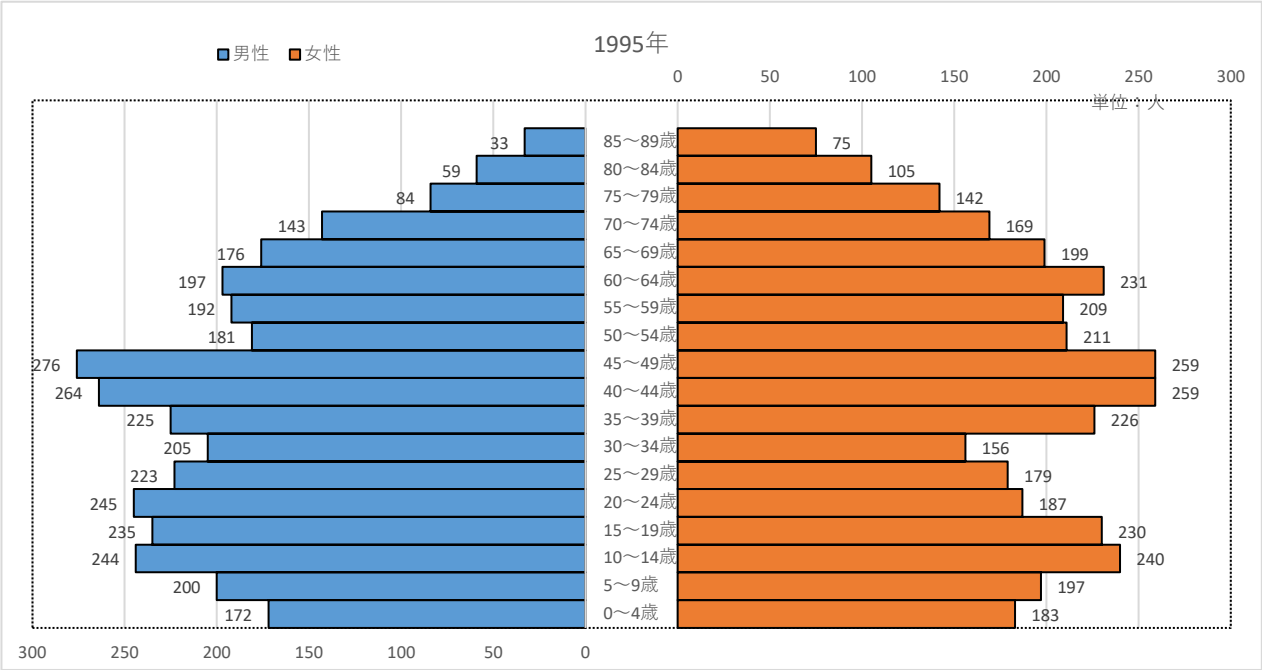
昭和 55（1975）年、平成 7（1995）年、平成 27（2015）年、2020 年、2025 年、2035 円、2045 年の男女別・年齢人口別の人口ピラミッドは次のとおりです。

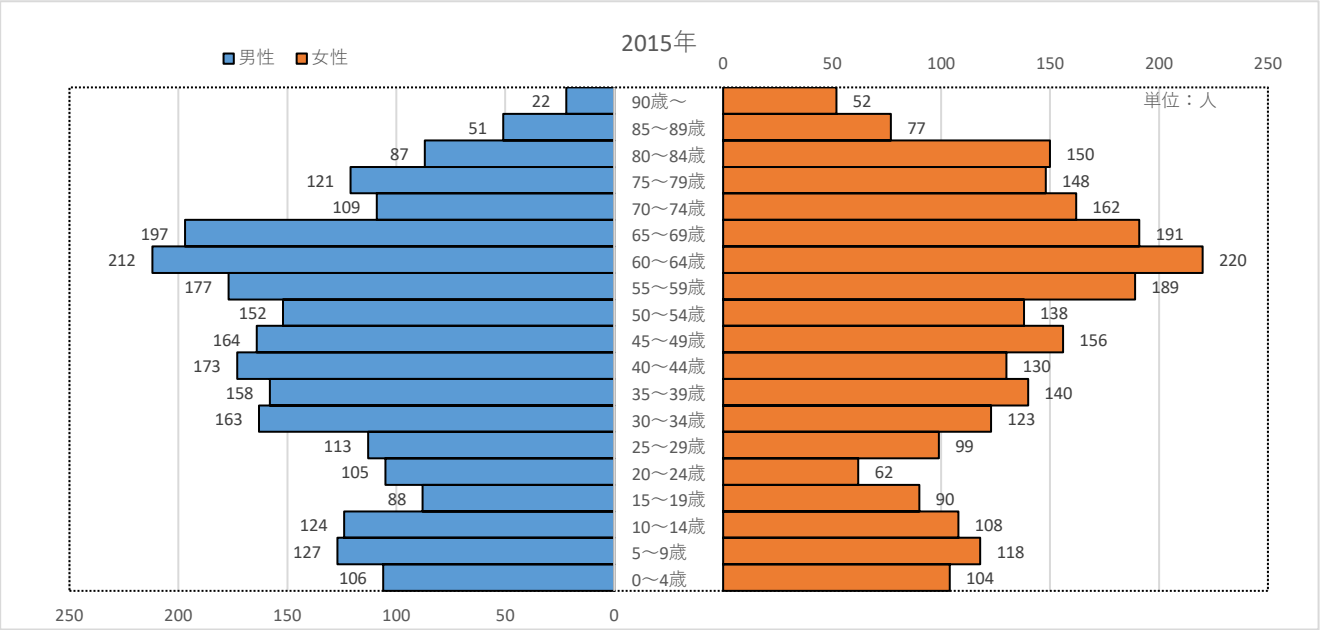
昭和 55 年は、三角形のピラミッド型をしていますが、進学等で町外に出る人が多いので 15～19 歳が極端に少ないのが分かります。

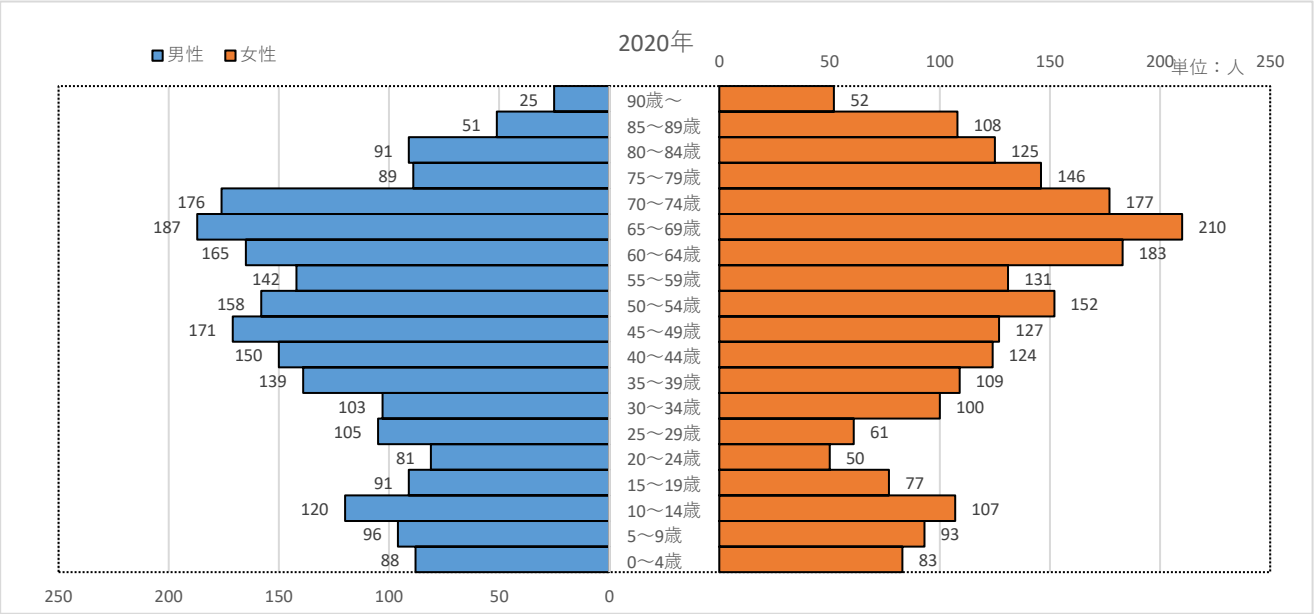
平成 7 年以降は、少子化の影響が出始め若年齢層が少なくなり、三角形からつぼ型へと形が変わってきています。

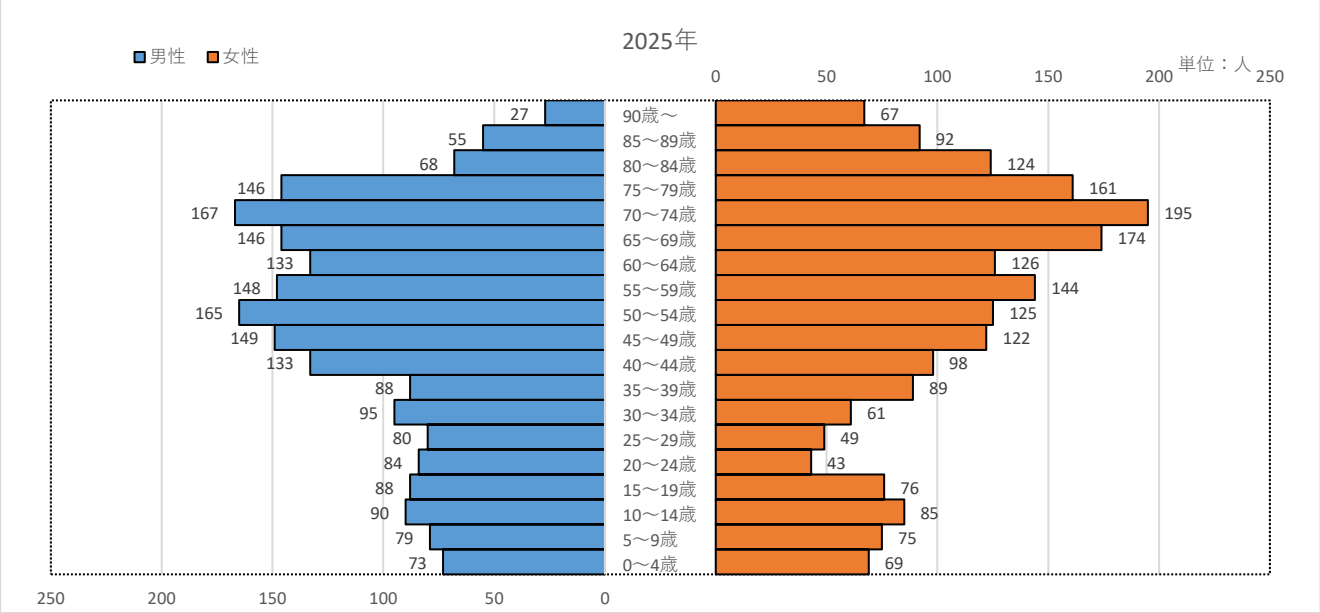
図４　えりも町男女・年齢別人口（人口ピラミッド）

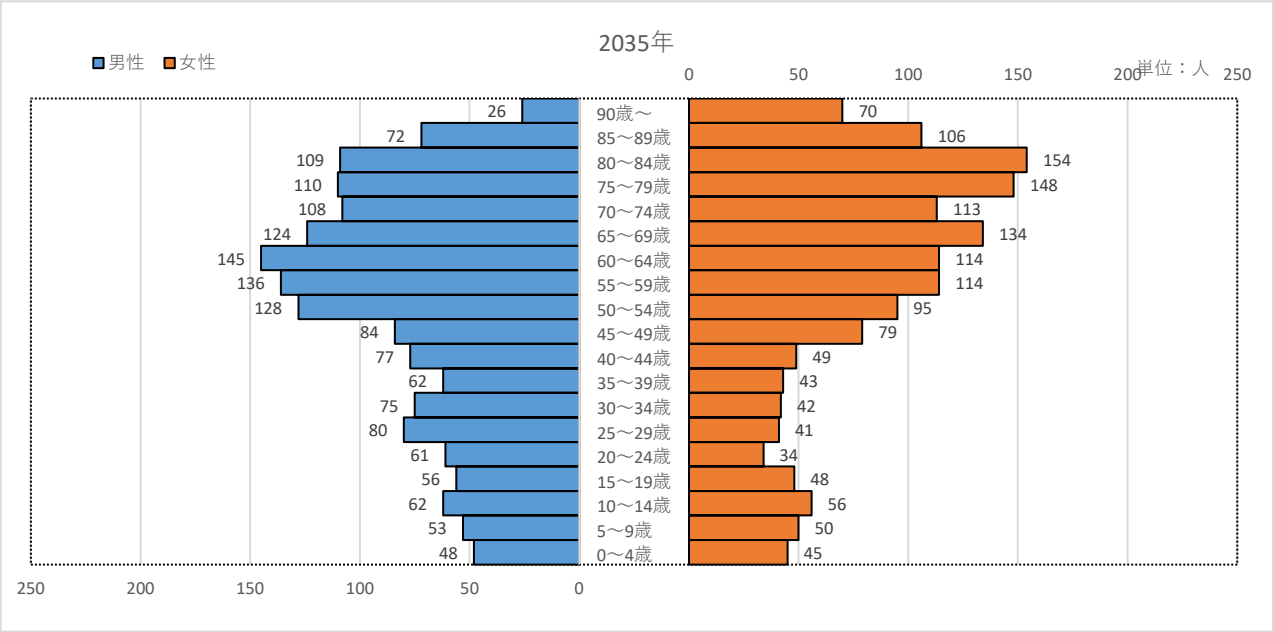


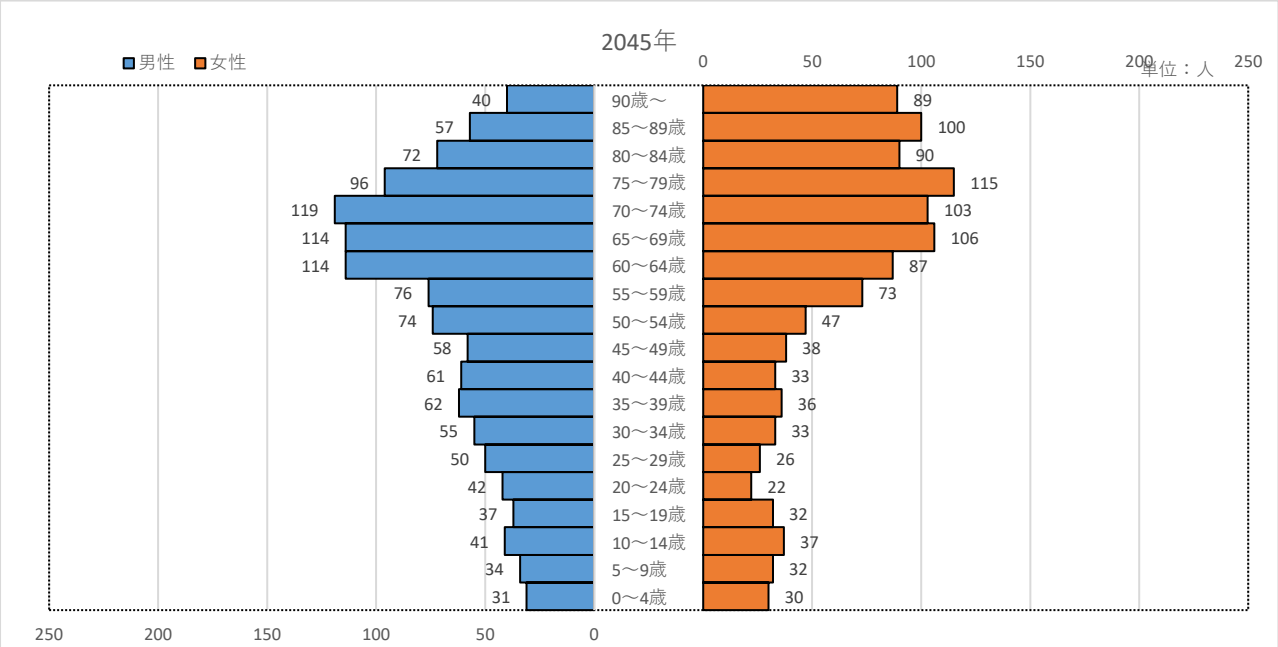



2015年
男性
女性
単位：人
90歳～ 22 52
85～89歳 51 77
80～84歳 87 150
75～79歳 121 148
70～74歳 109 162
65～69歳 197 191
60～64歳 212 220
55～59歳 177 189
50～54歳 152 138
45～49歳 164 156
40～44歳 173 130
35～39歳 158 140
30～34歳 163 123
25～29歳 113 99
20～24歳 105 62
15～19歳 88 90
10～14歳 124 108
5～9歳 127 118
0～4歳 106 104
250 200 150 100 50 0
0 50 100 150 200 250


2020年
男性
女性
単位：人
90歳～ 25 52
85～89歳 51 108
80～84歳 91 125
75～79歳 89 146
70～74歳 176 177
65～69歳 187 210
60～64歳 165 183
55～59歳 142 131
50～54歳 158 152
45～49歳 171 127
40～44歳 150 124
35～39歳 139 109
30～34歳 103 100
25～29歳 105 61
20～24歳 81 50
15～19歳 91 77
10～14歳 120 107
5～9歳 96 93
0～4歳 88 83
250 200 150 100 50 0
0 50 100 150 200 250


2025年
男性
女性
単位：人
90歳～ 27 67
85～89歳 55 92
80～84歳 68 124
75～79歳 146 161
70～74歳 167 195
65～69歳 146 174
60～64歳 133 126
55～59歳 148 144
50～54歳 165 125
45～49歳 149 122
40～44歳 133 98
35～39歳 88 89
30～34歳 95 61
25～29歳 80 49
20～24歳 84 43
15～19歳 88 76
10～14歳 90 85
5～9歳 79 75
0～4歳 73 69
250 200 150 100 50 0
0 50 100 150 200 250





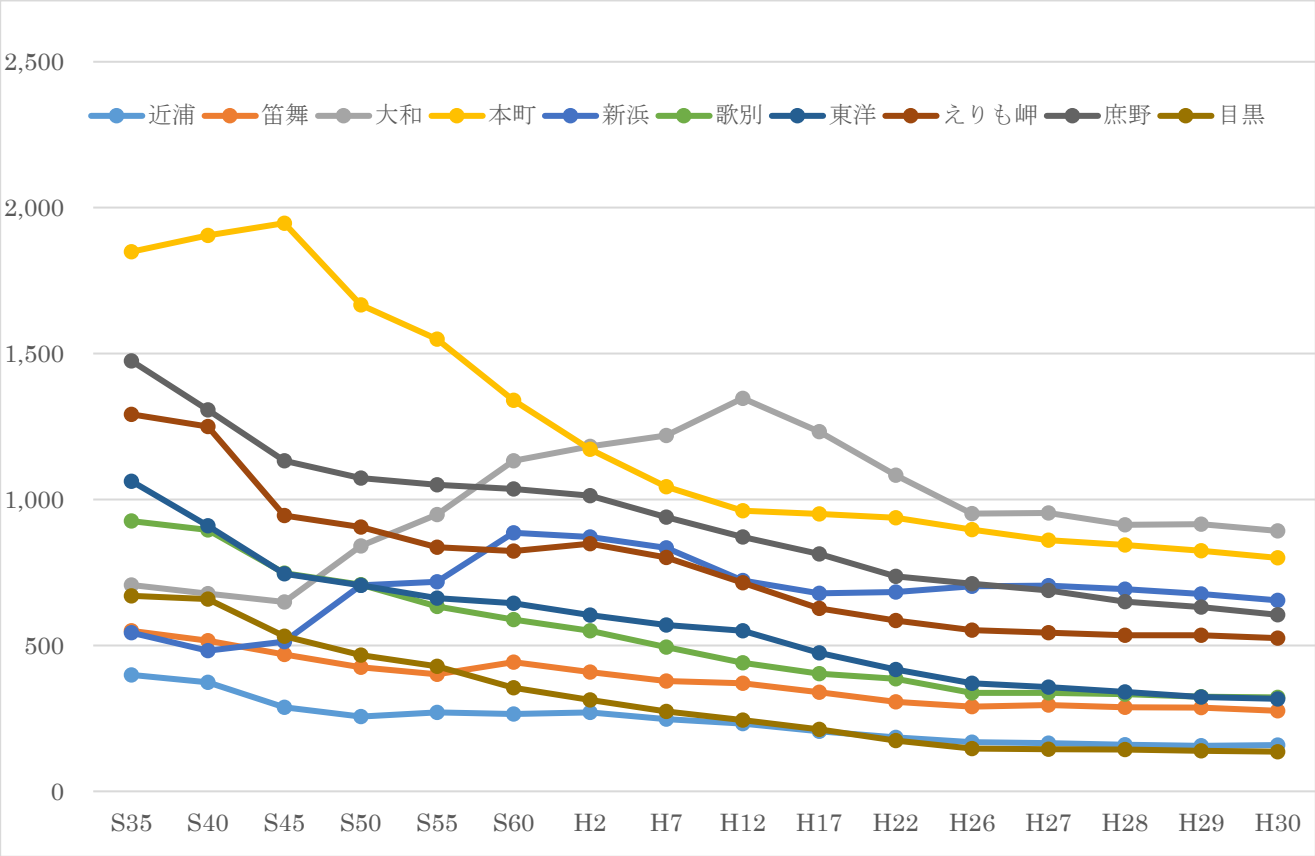
資料：国勢調査、社人研推計より作成

（４）地区別人口の推移

昭和 35 年以降、人口が減少傾向で推移している地区は、「近浦」「笛舞」「歌別」「東洋」「えりも岬」「庶野」「目黒」となっています。

一方、「本町」は昭和 45 年までは増加傾向でしたが、その後は減少しており、「大和」は、平成 12 年までは増加傾向にあり、その後減少に転じています。「新浜」は、昭和 60 年まで増加傾向にあり、その後、平成 17 年まで減少し、一旦平成 22 年から 27 年まで増加しましたが、平成 28 年以は降減少に転じています。

図５　地区別人口の推移



	S35	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26	H27	H28	H29	H30
近浦	399	374	288	256	270	265	271	247	232	206	185	168	165	160	156	159
笛舞	550	516	469	425	401	443	409	378	370	340	307	290	296	288	287	276
大和	707	677	649	841	948	1,133	1,182	1,219	1,347	1,233	1,083	952	954	913	916	893
本町	1,849	1,905	1,947	1,667	1,550	1,340	1,172	1,044	962	951	938	897	861	844	825	800
新浜	544	482	513	706	718	886	872	834	723	679	683	703	705	693	676	654
歌別	926	896	748	708	634	589	550	494	440	403	386	337	337	333	324	322
東洋	1,063	910	746	706	662	645	604	570	550	474	418	370	357	341	323	317
えりも岬	1,292	1,250	945	906	837	823	849	801	715	627	585	552	544	535	535	525
庶野	1,475	1,307	1,133	1,074	1,051	1,036	1,013	940	872	814	737	712	688	650	631	605
目黒	670	659	532	467	429	355	313	274	244	212	174	146	144	143	139	136
全体	9,475	8,976	7,970	7,756	7,500	7,515	7,235	6,801	6,455	5,939	5,496	5,127	5,051	4,900	4,812	4,687

資料：住民基本台帳　各年 12 月末現在

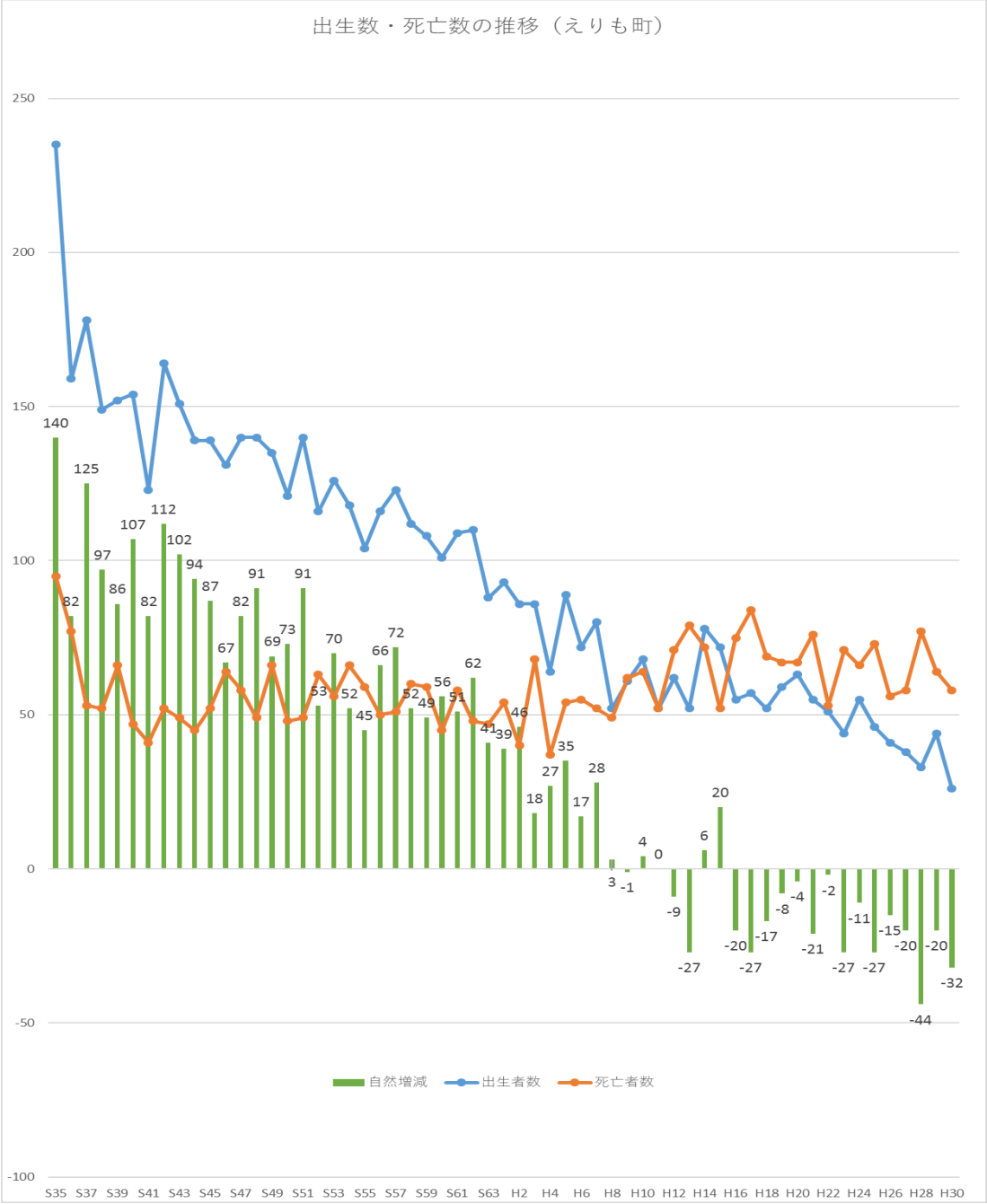
※赤文字は前の年と比較して人口が減少している場合、青文字は前の年と比較して人口が増加している場合。

（５）出生数・死亡数の推移

えりも町の出生数は、昭和 62 年までは 100 人以上でしたが、その後減少傾向で推移し、平成 30 年は 26 人、令和元年は 20 人と大幅な減少がみられます。

「自然増減」については、平成 7 年までは出生数が死亡数を上回っていたため「自然増」の状態が続いていましたが、その後出生数と死亡数が均衡し推移していましたが、平成 16 年以降は死亡数が出生数を下回る自然減の状況になっています。

図６　出生数・死亡数の推移



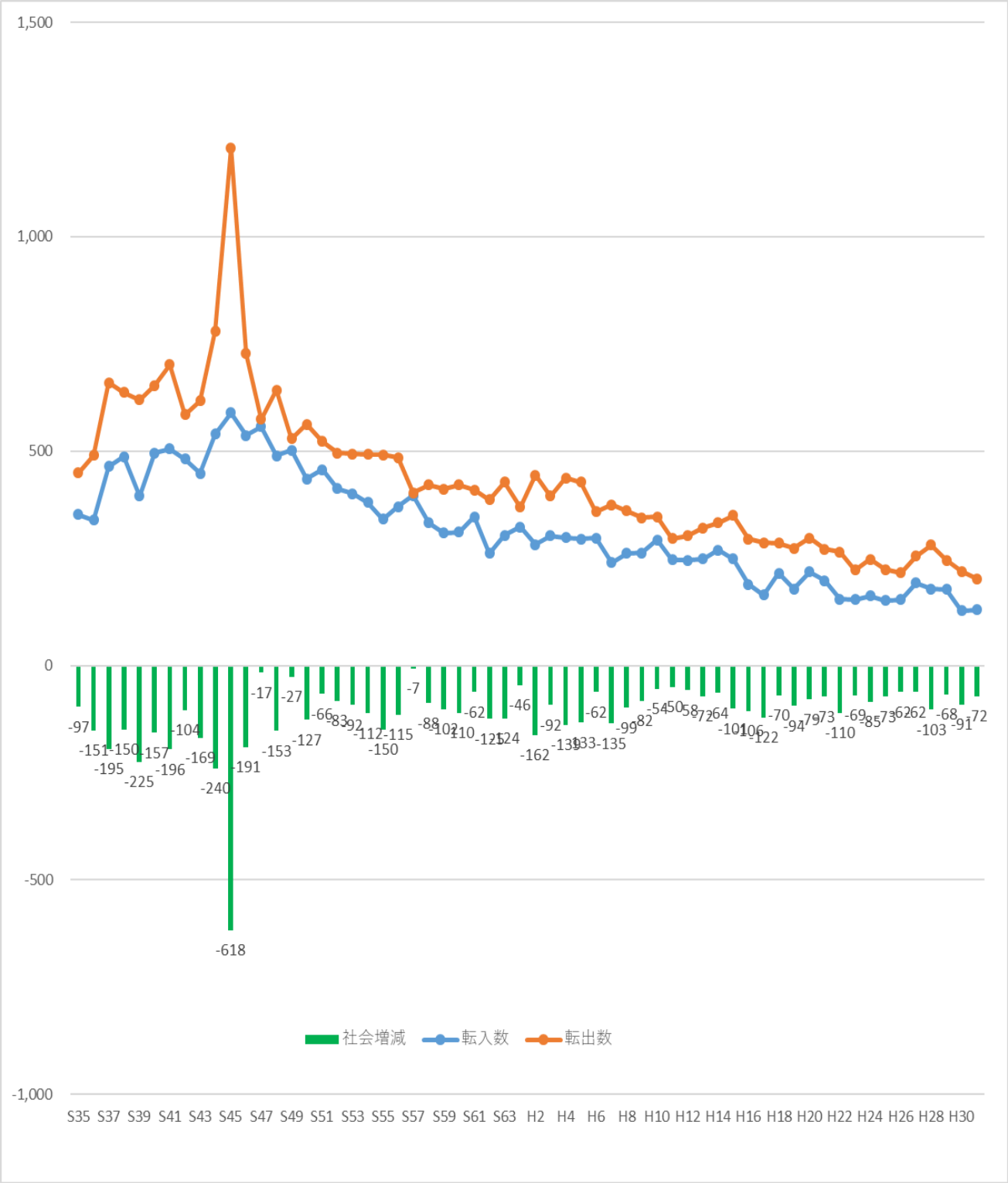
資料：地域経済分析システム

	出生者数			死亡者数			自然増減
	男	女	合計	男	女	合計	
1960(S35)	128	107	235	55	40	95	140
1961(S36)	79	80	159	38	39	77	82
1962(S37)	106	72	178	32	21	53	125
1963(S38)	75	74	149	30	22	52	97
1964(S39)	83	69	152	38	28	66	86
1965(S40)	76	78	154	25	22	47	107
1966(S41)	62	61	123	29	12	41	82
1967(S42)	89	75	164	33	19	52	112
1968(S43)	76	75	151	32	17	49	102
1969(S44)	81	58	139	23	22	45	94
1970(S45)	76	63	139	26	26	52	87
1971(S46)	74	57	131	34	30	64	67
1972(S47)	78	62	140	33	25	58	82
1973(S48)	71	69	140	25	24	49	91
1974(S49)	70	65	135	43	23	66	69
1975(S50)	64	57	121	32	16	48	73
1976(S51)	71	69	140	32	17	49	91
1977(S52)	63	53	116	36	27	63	53
1978(S53)	65	61	126	36	20	56	70
1979(S54)	67	51	118	39	27	66	52
1980(S55)	45	59	104	29	30	59	45
1981(S56)	65	51	116	29	21	50	66
1982(S57)	61	62	123	30	21	51	72
1983(S58)	53	59	112	37	23	60	52
1984(S59)	53	55	108	35	24	59	49
1985(S60)	47	54	101	28	17	45	56
1986(S61)	52	57	109	32	26	58	51
1987(S62)	54	56	110	30	18	48	62
1988(S63)	47	41	88	25	22	47	41
1989(H1)	51	42	93	34	20	54	39
1990(H2)	38	48	86	26	14	40	46
1991(H3)	40	46	86	32	36	68	18
1992(H4)	29	35	64	26	11	37	27
1993(H5)	45	44	89	29	25	54	35
1994(H6)	32	40	72	36	19	55	17
1995(H7)	49	31	80	32	20	52	28
1996(H8)	23	29	52	21	28	49	3
1997(H9)	34	27	61	27	35	62	▲ 1
1998(H10)	31	37	68	42	22	64	4
1999(H11)	27	25	52	32	20	52	0
2000(H12)	31	31	62	43	28	71	▲ 9
2001(H13)	22	30	52	46	33	79	▲ 27
2002(H14)	38	40	78	45	27	72	6
2003(H15)	40	32	72	18	34	52	20
2004(H16)	21	34	55	37	38	75	▲ 20
2005(H17)	33	24	57	42	42	84	▲ 27
2006(H18)	26	26	52	35	34	69	▲ 17
2007(H19)	30	29	59	29	38	67	▲ 8
2008(H20)	38	25	63	40	27	67	▲ 4
2009(H21)	22	33	55	38	38	76	▲ 21
2010(H22)	22	29	51	30	23	53	▲ 2
2011(H23)	25	19	44	35	36	71	▲ 27
2012(H24)	24	31	55	36	30	66	▲ 11
2013(H25)	24	22	46	46	27	73	▲ 27
2014(H26)	22	19	41	24	32	56	▲ 15
2015(H27)	15	23	38	32	26	58	▲ 20
2016(H28)	18	15	33	44	33	77	▲ 44
2017(H29)	22	22	44	35	29	64	▲ 20
2018(H30)	13	13	26	28	30	58	▲ 32
2019(R1)	10	10	20	29	26	55	▲ 35

（６）転入数・転出数の推移

「社会増減」については、すべての年において、転出数が転入数を上回る「社会減」の状態が続いています。

図７　転入数・転出数の推移



	転入数			転出数			社会増減
	男	女	合計	男	女	合計	
1960(S35)	185	167	352	224	225	449	▲ 97
1961(S36)	195	144	339	253	237	490	▲ 151
1962(S37)	257	207	464	340	319	659	▲ 195
1963(S38)	285	202	487	321	316	637	▲ 150
1964(S39)	211	184	395	344	276	620	▲ 225
1965(S40)	277	219	496	342	311	653	▲ 157
1966(S41)	274	231	505	380	321	701	▲ 196
1967(S42)	247	234	481	337	248	585	▲ 104
1968(S43)	264	184	448	321	296	617	▲ 169
1969(S44)	268	272	540	411	369	780	▲ 240
1970(S45)	316	273	589	609	598	1207	▲ 618
1971(S46)	289	247	536	391	336	727	▲ 191
1972(S47)	313	244	557	320	254	574	▲ 17
1973(S48)	287	202	489	366	276	642	▲ 153
1974(S49)	295	207	502	302	227	529	▲ 27
1975(S50)	228	207	435	289	273	562	▲ 127
1976(S51)	236	221	457	289	234	523	▲ 66
1977(S52)	230	182	412	255	240	495	▲ 83
1978(S53)	230	171	401	283	210	493	▲ 92
1979(S54)	211	169	380	260	232	492	▲ 112
1980(S55)	196	145	341	280	211	491	▲ 150
1981(S56)	204	166	370	256	229	485	▲ 115
1982(S57)	200	196	396	222	181	403	▲ 7
1983(S58)	181	152	333	224	197	421	▲ 88
1984(S59)	182	127	309	222	189	411	▲ 102
1985(S60)	171	140	311	244	177	421	▲ 110
1986(S61)	195	152	347	236	173	409	▲ 62
1987(S62)	149	113	262	210	177	387	▲ 125
1988(S63)	163	141	304	238	190	428	▲ 124
1989(H1)	201	122	323	206	163	369	▲ 46
1990(H2)	163	119	282	231	213	444	▲ 162
1991(H3)	175	128	303	218	177	395	▲ 92
1992(H4)	177	121	298	235	202	437	▲ 139
1993(H5)	166	129	295	227	201	428	▲ 133
1994(H6)	166	131	297	191	168	359	▲ 62
1995(H7)	109	131	240	209	166	375	▲ 135
1996(H8)	145	117	262	203	158	361	▲ 99
1997(H9)	158	105	263	191	154	345	▲ 82
1998(H10)	159	134	293	184	163	347	▲ 54
1999(H11)	147	99	246	147	149	296	▲ 50
2000(H12)	136	109	245	160	143	303	▲ 58
2001(H13)	141	108	249	174	147	321	▲ 72
2002(H14)	145	124	269	179	154	333	▲ 64
2003(H15)	124	125	249	187	163	350	▲ 101
2004(H16)	114	75	189	155	140	295	▲ 106
2005(H17)	99	65	164	140	146	286	▲ 122
2006(H18)	117	98	215	161	124	285	▲ 70
2007(H19)	99	80	179	141	132	273	▲ 94
2008(H20)	128	90	218	160	137	297	▲ 79
2009(H21)	106	92	198	138	133	271	▲ 73
2010(H22)	90	65	155	142	123	265	▲ 110
2011(H23)	93	61	154	108	115	223	▲ 69
2012(H24)	91	71	162	136	111	247	▲ 85
2013(H25)	86	65	151	121	103	224	▲ 73
2014(H26)	101	53	154	124	92	216	▲ 62
2015(H27)	103	90	193	136	119	255	▲ 62
2016(H28)	112	66	178	151	130	281	▲ 103
2017(H29)	108	69	177	137	108	245	▲ 68
2018(H30)	70	58	128	115	104	219	▲ 91
2019(R1)	87	43	130	108	94	202	▲ 72

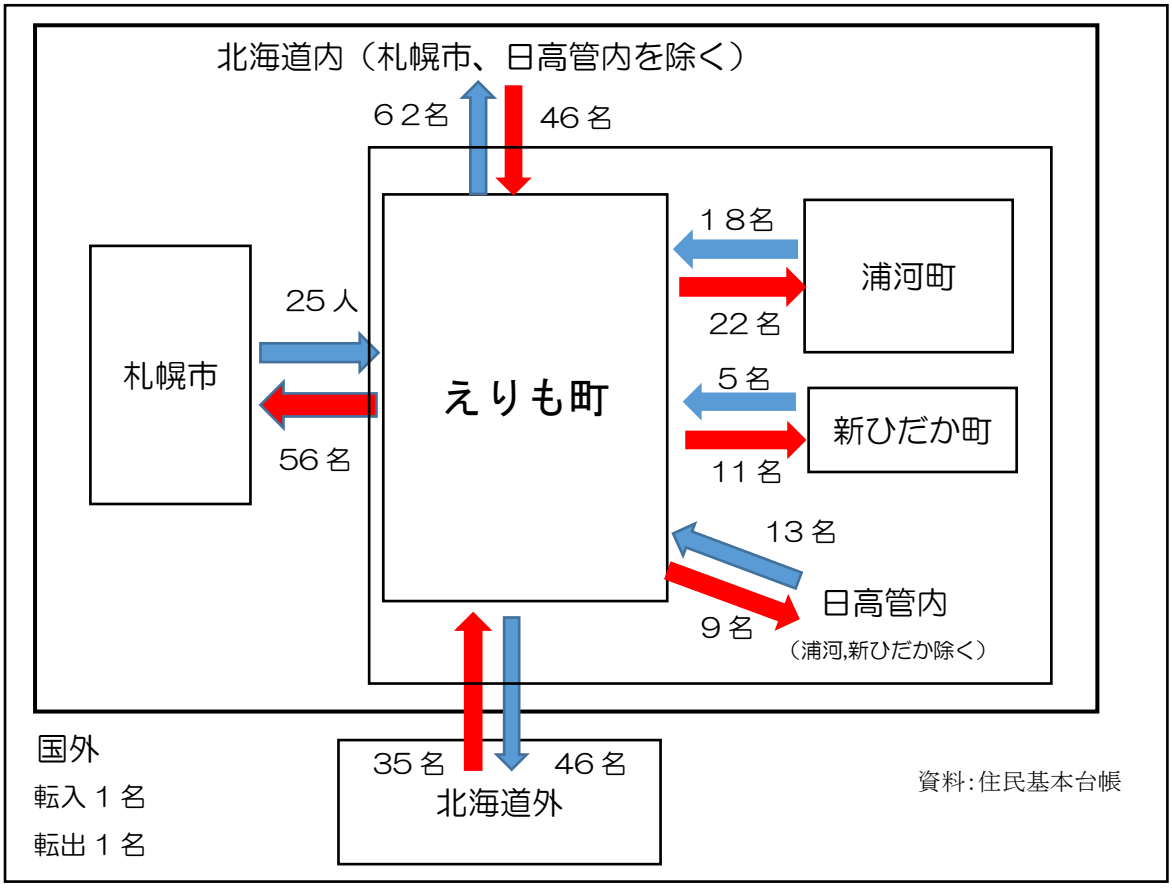
（７）人口移動の状況

平成３０年のえりも町の転入・転出状況は、浦河町への転出は 22 名で、同町からの転入は 18 名となり、４名の転出超過で、新ひだか町への転出は 11 名で、同町からの転入は５名となり、６名の転出超過となっています。

また、北海道内の移動では、本町から札幌市への転出は 56 名、同市からの転入は 25 名と転出超過となっていますし、札幌市と日高管内を除く道内の移動でも転出が 62 名、転入が 46 名となっており、大幅な転出超過となっています。

北海道外への移動状況は、転出が 47 名、転入が 36 名となり、11 名の転出超過となっています。

図８　えりも町（平成３０年）の転出入状況

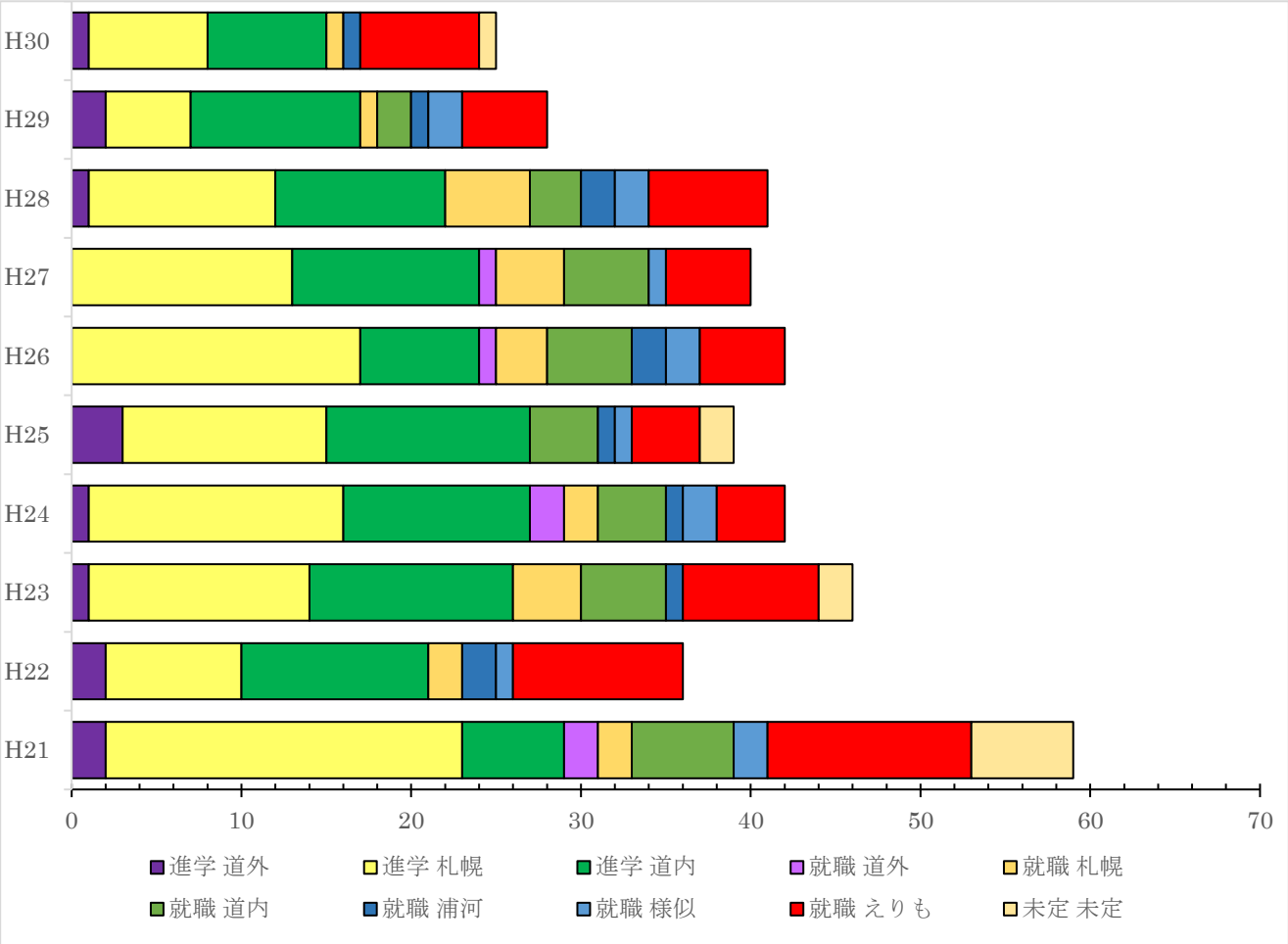


日高振興局の転出入の状況

道内				道外				転出入の差	
転入－転出		-728		転入－転出		-136			
転入計	2,031	転出計	2,759	転入計	494	転出計	630	道内	-728
石狩	674	石狩	1,109	東京都	90	東京都	106		
胆振	247	胆振	492	神奈川県	46	神奈川県	52		
十勝	113	十勝	105	埼玉県	42	千葉県	49		
上川	85	空知	88	千葉県	32	埼玉県	40		
渡島	66	上川	87	大阪府	20	大阪府	33	道外	-136
札幌市	506	札幌市	886	岩手県	17	岩手県	28		
苫小牧市	137	苫小牧市	357	茨城県	17	茨城県	23		
帯広市	57	千歳市	99	愛知県	17	福岡県	22		
旭川市	48	室蘭市	54	兵庫県	16	愛知県	21		
函館市	43	函館市	51	海外	28	海外	75	合計	-864

資料:北海道「住民基本台帳人口移動報告（H31.1～R1.12）

図９　えりも高校の卒業生の進路



	進学																就職							未定	計
	大学				短大			養護学校		専門学校			各種学校			小計									
	道外	札幌	江別	道内	札幌	江別	道内	浦河	道内	道外	札幌	道内	道外	道内	鹿部		道外	札幌	道内	浦河	様似	えりも	小計		
H30	1	4		4	3	1			1						1	15		1		1		7	9	1	25
H29	2	1	2	4		1		2			4	1				17		1	2	1	2	5	11		28
H28		1		4	1			1	2	1	9	2			1	22		5	3	2	2	7	19		41
H27		3	3	3	2	1		1			8	1			2	24	1	4	5		1	5	16		40
H26		2		1	3			2	1		12	1			2	24	1	3	5	2	2	5	18		42
H25	1	2	2	1	3	1		2			7	3	2		3	27			4	1	1	4	10	2	39
H24		2			5		2	2	1		8	2	1	1	3	27	2	2	4	1	2	4	15		42
H23		1	2	1	1	2		2	2	1	11	1			2	26		4	5	1		8	18	2	46
H22	2	1	1			1	1	3	1		7	1			3	21		2		2	1	10	15		36
H21	1	3		1	3		2	1			15		1		2	29	2	2	6		2	12	24	6	59

資料：えりも高校提供

えりも高校卒業生の進路としては、50～60％の生徒が大学や専門学校に進学しており、70～80％の生徒が進学や就職でえりも町を離れています。その多くは札幌を中心とした北海道内で、道外に行く生徒は少ない状況となっています。

また、各種学校では、道立漁業研修所（鹿部町）に、ほぼ毎年、入所しています。

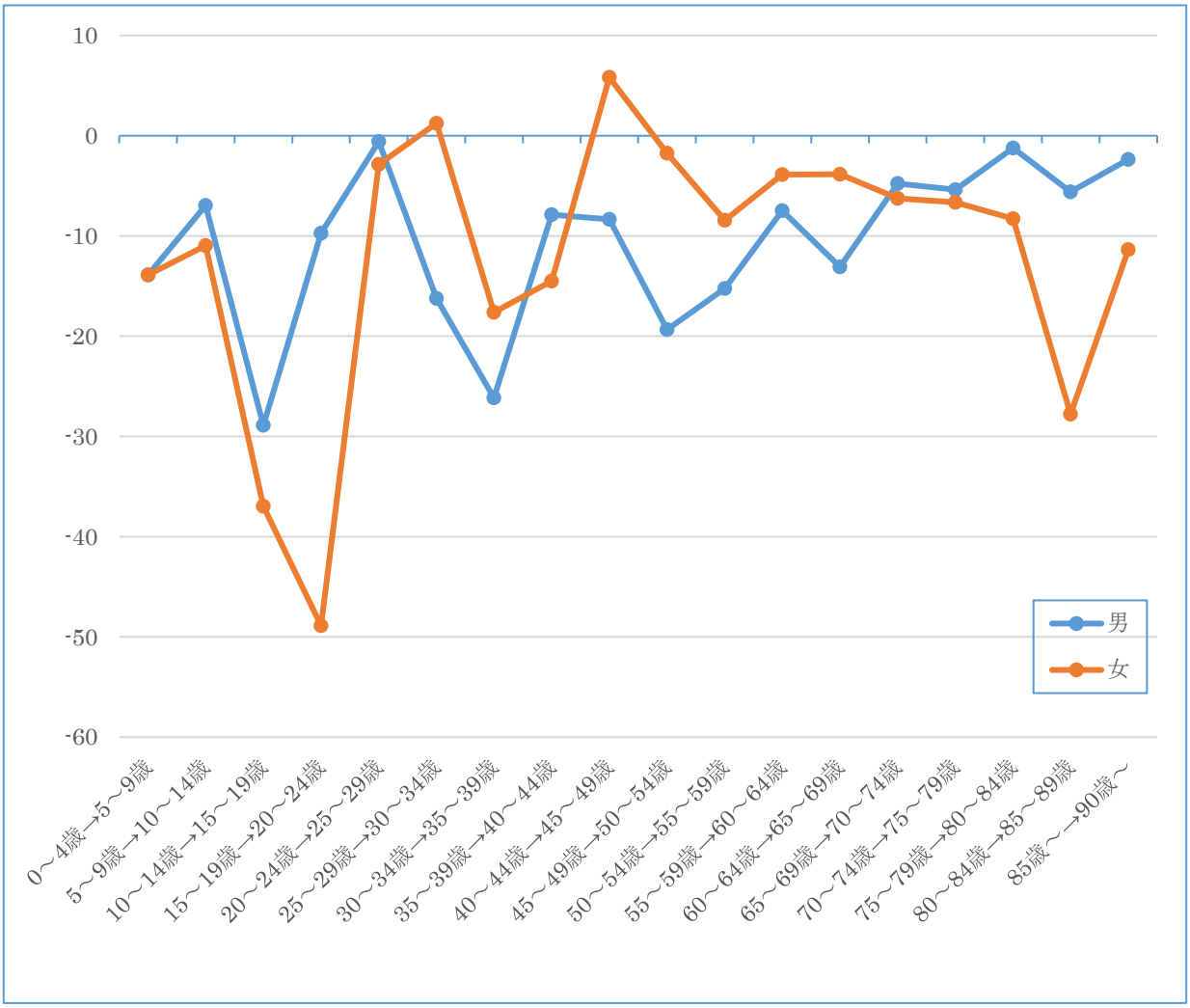
（８）性別・年齢階級別の人口移動の最近の状況

えりも町の男性においては、10～14 歳→15～19 歳、30～34 歳→35～39 歳になるときに大幅な転出超過となっています。

女性においては、15～19 歳→20～24 歳になるときに最も大幅な転出超過となっており、10～14 歳→15～19 歳、80～84 歳→85～89 歳になるときにも大幅な転入超過となっています。一方、25～29 歳→30～34 歳、40～44 歳→45～49 歳になるときに転入超過となっています。

これは、中学校、高校卒業後の進学または就職に伴う転出の影響及び、学校卒業後の就職等に伴うＵターンによる転入の影響が考えられます。

図 10　平成 22 年→平成 27 年の年齢階級別人口移動の状況

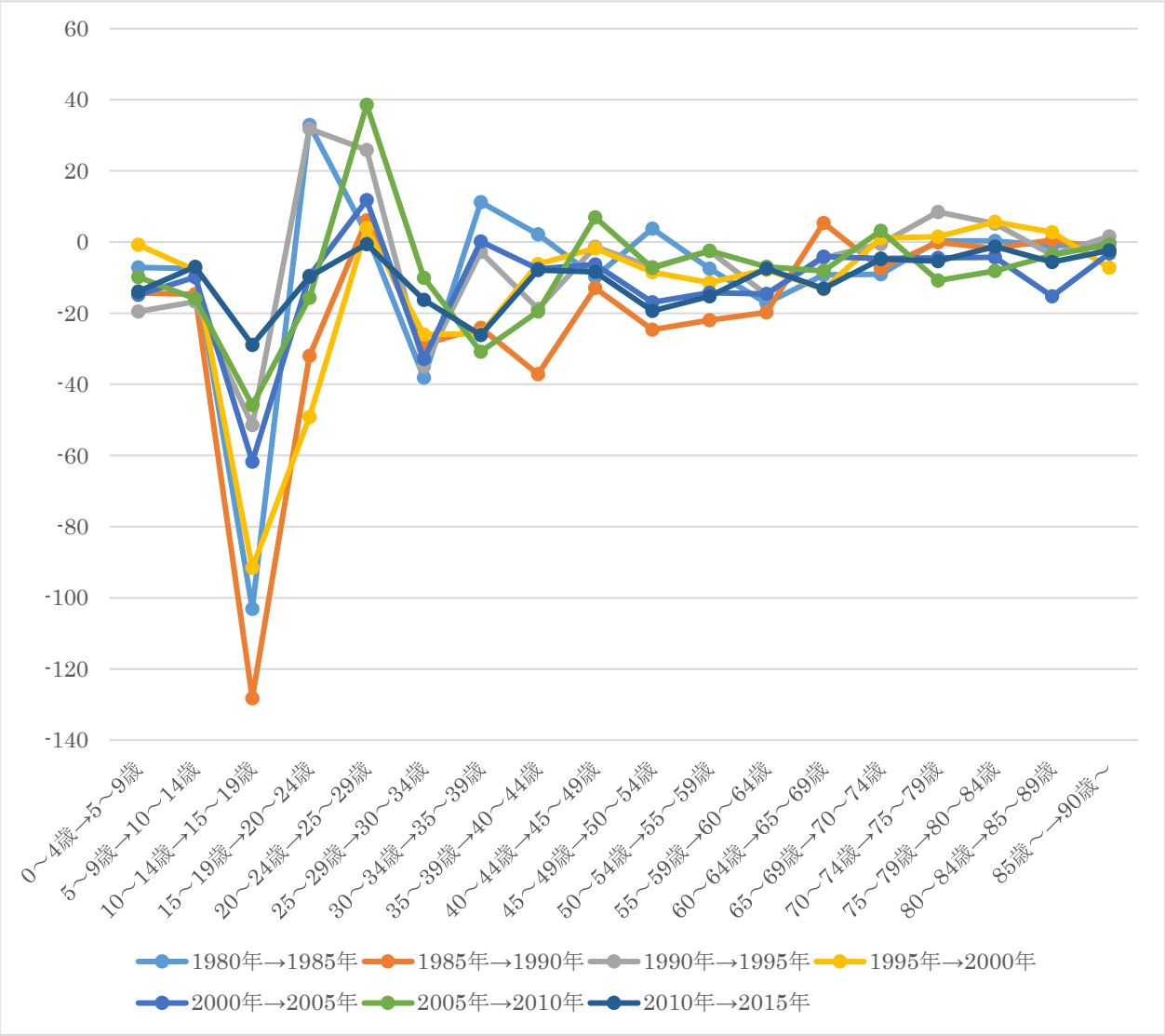


（９）性別・年齢階級別の人口移動の状況の長期的動向

えりも町の男性においては、10～14 歳→15～19 歳になるときに見られる大幅な転出超過は、近年縮小してきています。これは主に少子化による影響などが考えられます。

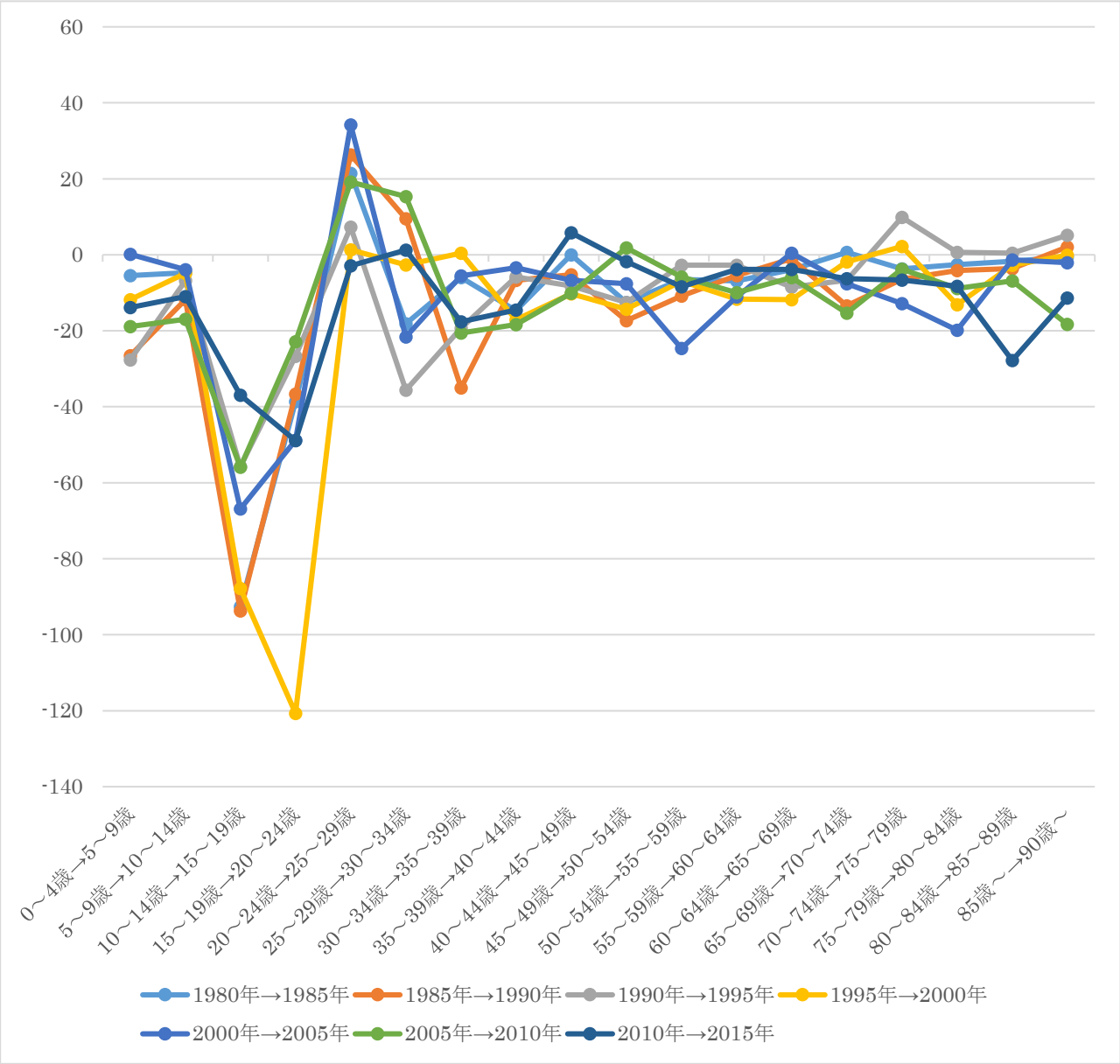
また、20～24 歳→25～29 歳は、転入超過で推移していましたが、2010 年→2015 年にはじめて転出超過となりました。

図 12　年齢階級別人口移動の状況の長期的動向（男性）



えりも町の女性においては、10～14 歳→15～19 歳、15～19 歳→20～24 歳になるときに見られる大幅な転出超過は、近年縮小してきています。これも主に少子化による影響などが考えられます。

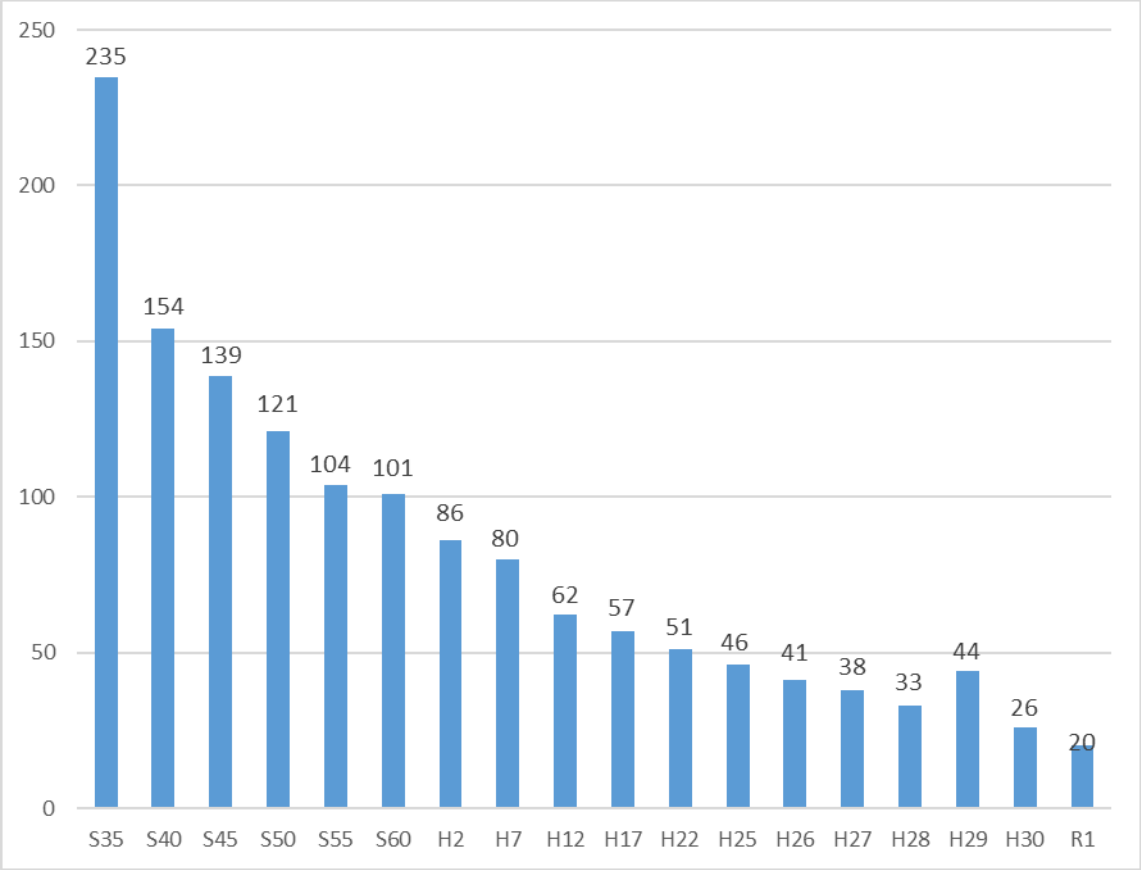
図 13　年齢階級別人口移動の状況の長期的動向（女性）



（10）出生数の推移

えりも町の出生数は、昭和 35 年の 235 人から減少傾向で推移し、特に直近の平成 30 年 26 人、令和元年 20 人と大幅に減少しています。

図 14　出生数の推移



資料：人口動態調査

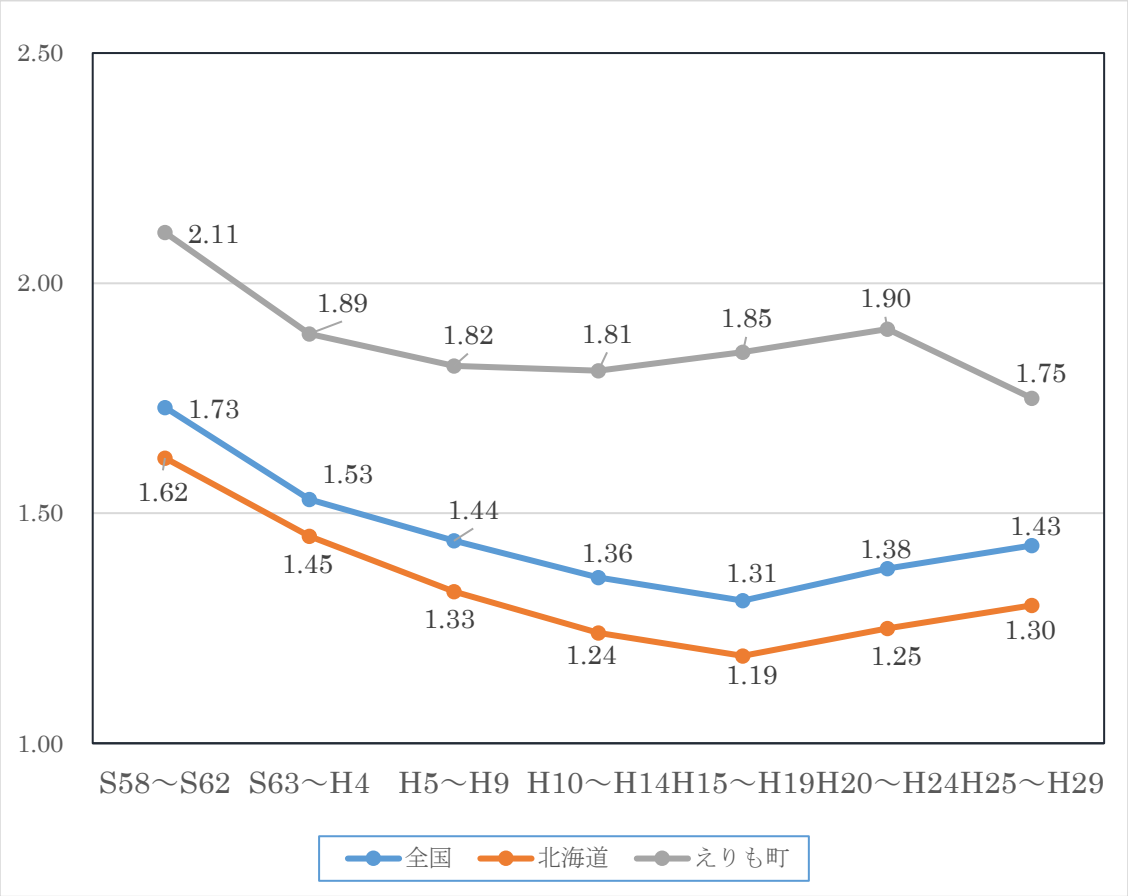
（11）合計特殊出生率の推移

合計特殊出生率とは、「15～49 歳までの女性」の年齢別出生率を合計したもので、１人の女性が一生の間に生む子どもの数に相当するとされ、女性人口の年齢構成の違いを除いた指標として、年次比較、地域比較に用いられています。

えりも町の合計特殊出生率は、S63～H4 の 2.11 から H10～14 の 1.81 までは減少傾向で推移していましたが、H15～H19 に 1.85、H20～H24 に 1.90 と上昇に転じています。

また、全国や北海道と比較すると高い水準で推移しており、H20～H24 の合計特殊出生率 1.90 は全道で１位となっていましたが、H25～H29 の合計特殊出生率では、1.75 と減少しました。

図 15　合計特殊出生率の推移



資料：人口動態統計

3．えりも町の就労等に関する分析等

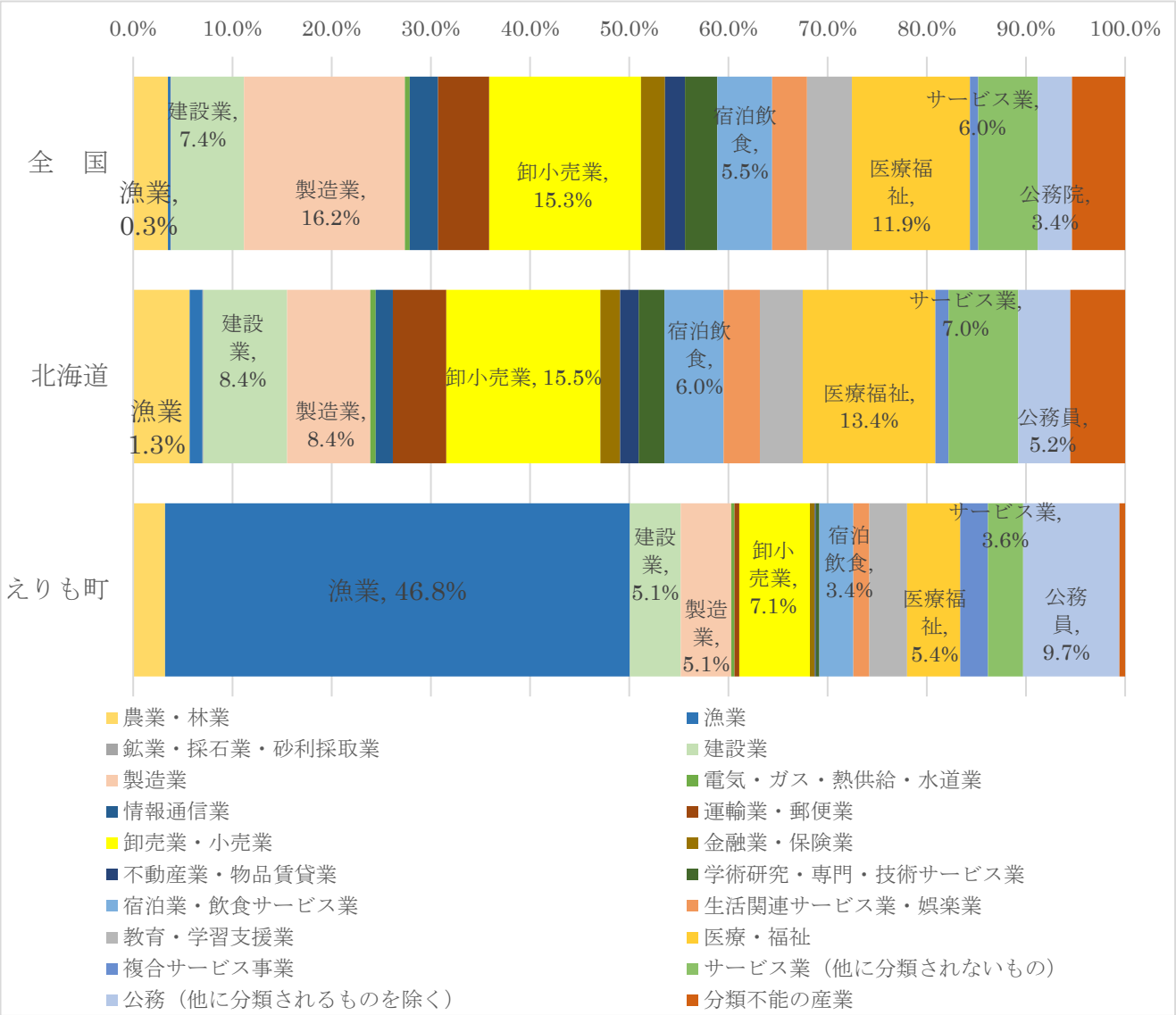
（１）えりも町の産業人口

平成27年の国勢調査よりえりも町の産業別就業人口の割合を全国及び北海道と比較を行いました。

えりも町の産業人口の特徴としては、「漁業」の就業者が圧倒的に多く、全体の約５割を占めます。因みに全国の「漁業」の占める割合は0.3%、北海道が1.3%です。

その他の産業では、「製造業」「卸小売業」「宿泊・飲食業」「医療・福祉」等において、全国や北海道よりも就業割合が少なくなっています。

図 16　産業別人口の全国・北海道との比較

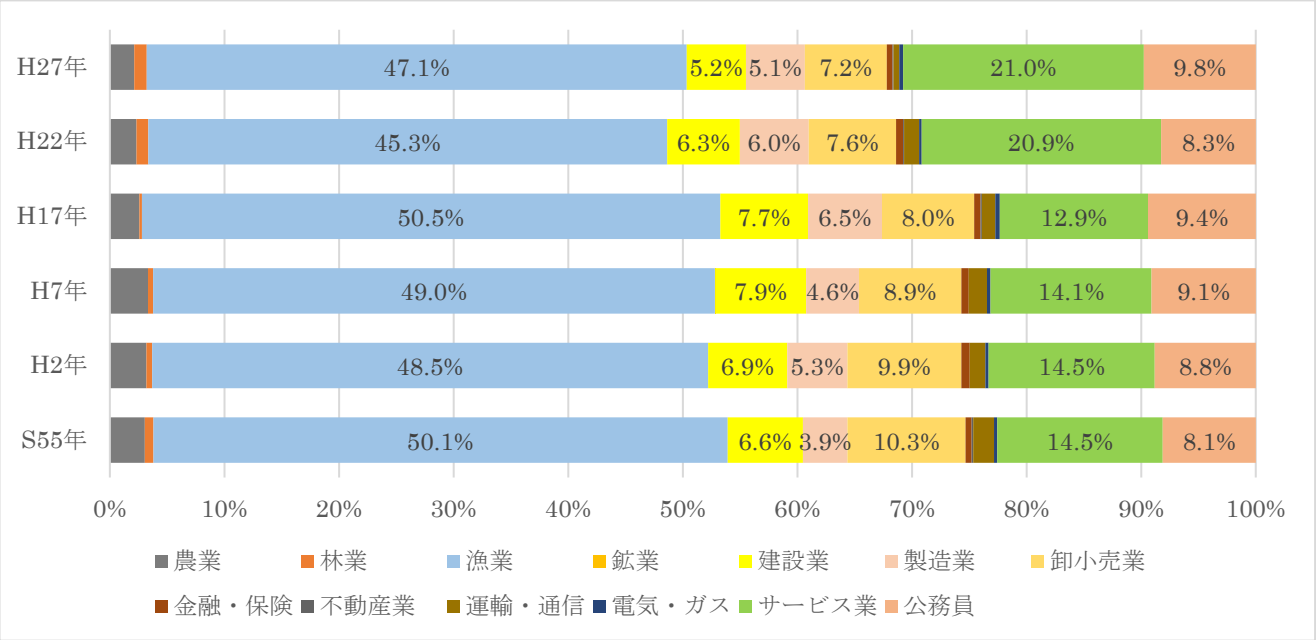


（２）産業人口の推移

えりも町の産業人口の特徴としては、「漁業」の就業者は年度別の比較においても、全体の約５割を占めています。

その他の産業では、「卸小売業」が減少傾向で、サービス業が増加傾向です。

図 17　えりも町産業人口の年度別の比較

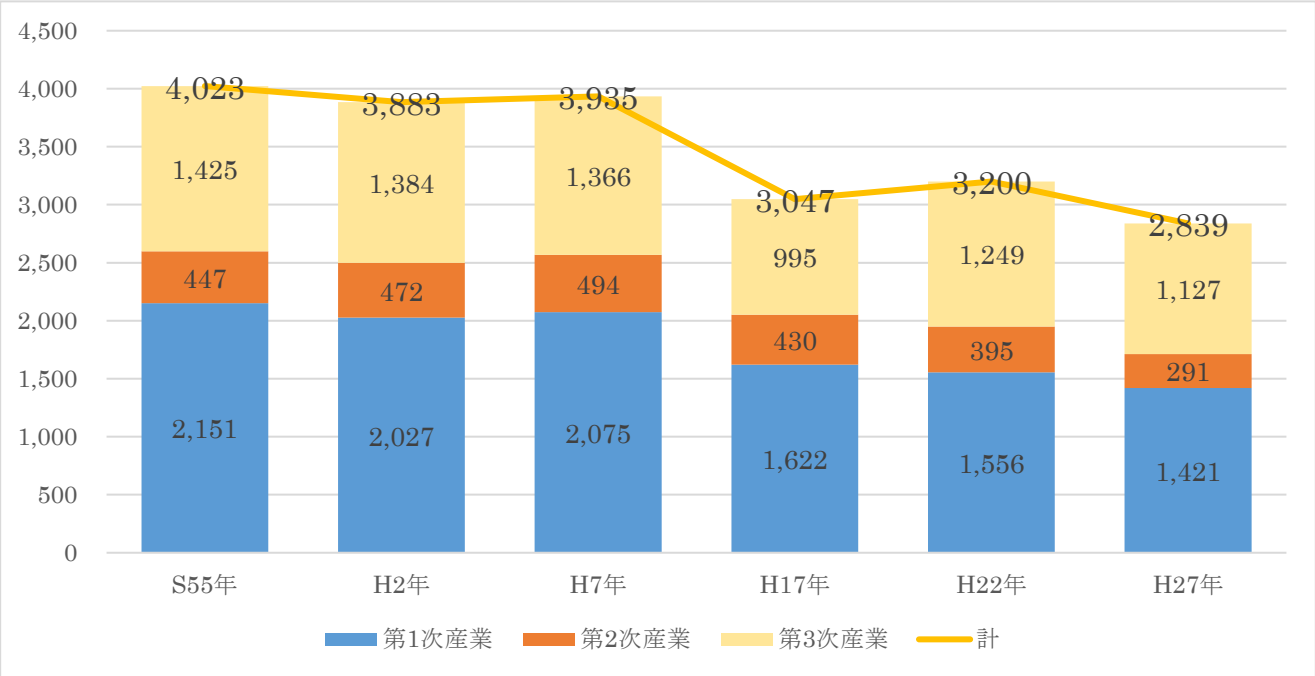


	農業	林業	漁業	鉱業	建設業	製造業	卸小売業	金融・保険	不動産業	運輸・通信	電気・ガス	サービス業	公務員
H27年	60人	31人	1330人	0人	146人	145人	202人	14人	3人	14人	9人	593人	276人
	2%	1%	47%	0%	5%	5%	7%	1%	0%	1%	0%	21%	10%
H22年	74人	33人	1449人	0人	203人	192人	244人	20人	2人	42人	7人	669人	264人
	2%	1%	45%	0%	6%	6%	8%	1%	0%	1%	0%	21%	8%
H17年	78人	7人	1537人	0人	233人	197人	245人	17人	3人	36人	12人	394人	286人
	3%	0%	51%	0%	8%	7%	8%	1%	0%	1%	0%	13%	9%
H7年	131人	17人	1927人	1人	312人	181人	351人	26人	0人	62人	12人	553人	357人
	3%	0%	49%	0%	8%	5%	9%	1%	0%	2%	0%	14%	9%
H2年	124人	19人	1884人	0人	268人	204人	386人	29人	0人	53人	11人	563人	342人
	3%	1%	49%	0%	7%	5%	10%	1%	0%	1%	0%	15%	9%
S60年	125人	31人	2058人	0人	270人	159人	424人	22人	5人	75人	11人	594人	333人
	3%	1%	50%	0%	7%	4%	10%	1%	0%	2%	0%	15%	8%

昭和５５年以降の産業人口は、平成７年に若干の増加に転じているものの、その後は減少傾向で推移し、平成 27 年には 3,000 人以下となりました。

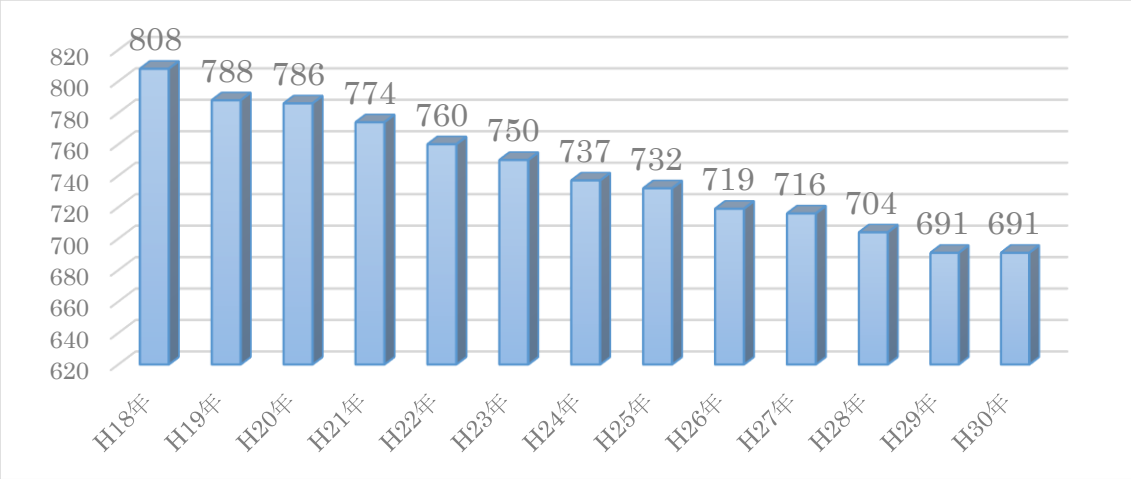
産業区分ごとの推移では、漁業を含む第１次産業においても全体の産業人口と同様に平成７年に若干の増加に転じているものの、その後は減少傾向で推移しています。

図 18　えりも町産業別就業人口の年度別の比較



※第１次産業：農業、林業、漁業
　第２次産業：鉱業、建設業、製造業
　第３次産業：電気・ガス・熱供給、水道業、運輸・通信業、卸小売業、飲食店、金融・保険業、不動産業、サービス業等、その他産業

図 19　えりも漁協の組合員数の推移



資料：えりも漁業協同組合　事業年度別業務報告書

えりも漁業協同組合の正組合員（法人を除く）は、えりも町と様似町冬島地区が対象範囲となっていますが、正組合員数も減少傾向で推移しています。

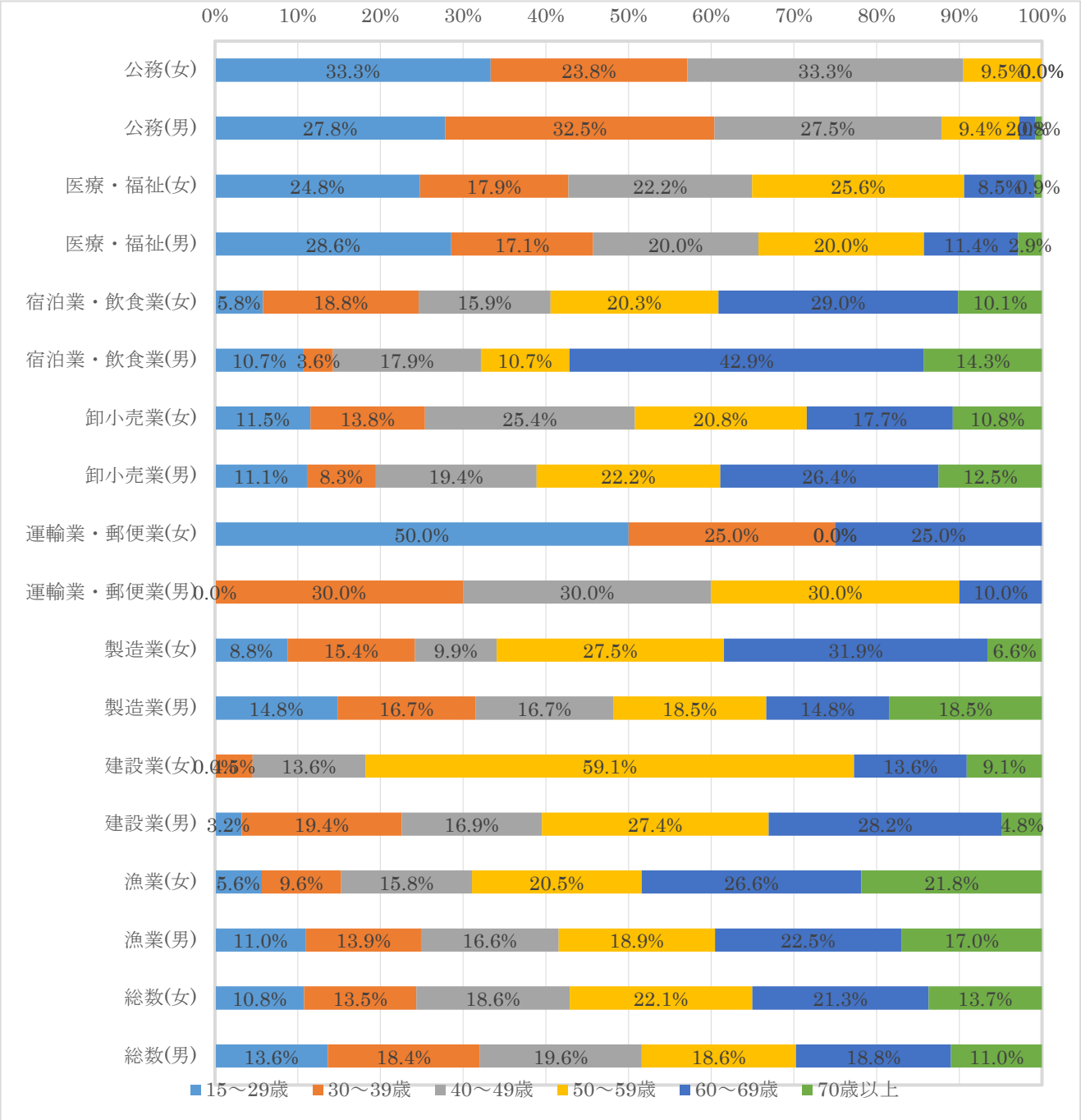
（３）年齢階級別産業人口

平成２７年の国勢調査より、主な産業別に、男女別就業者の年齢階級を把握しました。

えりも町の産業別従事者として、圧倒的に就業者が多い「漁業」に関しては、男性では、50 歳以上の就労者が 58.9%と半数以上となっており、女性では、50 歳以上の就業者が 68.9%と３分の２以上となっています。

その他、39 歳以下の就労者割合が多い産業としては、男性・女性ともに、「運輸業，郵便業」「医療，福祉」「公務」となっています。

図 20　年齢階級別産業人口（平成 27 年国勢調査）



資料：国勢調査

4．将来人口推計の分析

（１）総人口及び年齢３区分別人口の将来推計

①　パターン１（社人研 H30 年推計準拠）とパターン２（社人研 H25 年推計準拠）との総人口の比較

パターン1	国勢調査	平成27(2015)年実施
	将来の移動率	2010～2015年の純移動率が2045年まで継続すると仮定
	将来の子ども女性比（出生率の代替指標）	子ども(0～4歳人口）と女性(15～49歳女性人口)の比が、2015年の状況が2045年まで一定と仮定
パターン2	国勢調査	平成22(2010)年実施
	将来の移動率	2005～2010年の純移動率が、2020年まで0.5倍に縮小し、その値が2040年まで一定と仮定
	将来の子ども女性比（出生率の代替指標）	子ども女性比が、2010年の状況が2040年まで一定と仮定

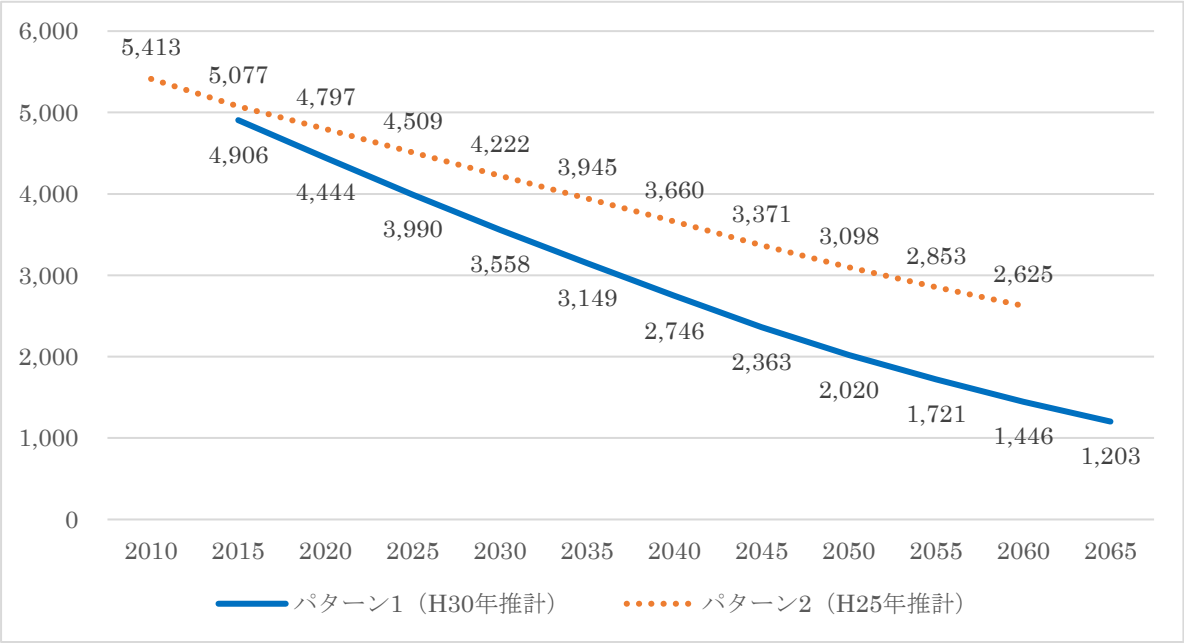
社人研が公表した最新の将来人口推計による日本の総人口は、平成 27（2010）年国勢調査による 1 億 2,709 万人から、2040 年には 1 億 1,092 万人 2065 年には 8,808 万人と 2010 年の 69.3%になると推計されています。

一方、社人研が公表した「日本の地域別将来推計人口（平成 30 年 3 月推計）」によると、えりも町の推計人口は、平成 27（2015）年の 4,906 人から 2065 年には 2010 年の 24.5%となる 1,203 人まで減少すると見込まれ、国よりも大幅なペースで人口が減少すると見込まれます。（以下「パターン 1」）

この推計は、前回の将来人口推計（平成 25 年 3 月推計）よりも、人口減少がより進んだものとなっています。（以下「パターン 2」）

パターン1とパターン2による 2060 年の総人口は、それぞれ 1,446 人と 2,625 人となっており、今回の推計では前回の推計より 1,179 人減少すると推計されています。

図 21　パターン１とパターン２の総人口推計の比較



② 人口減少段階の分析

人口減少段階は、一般的に次の３つの段階を経て進行するとされています。

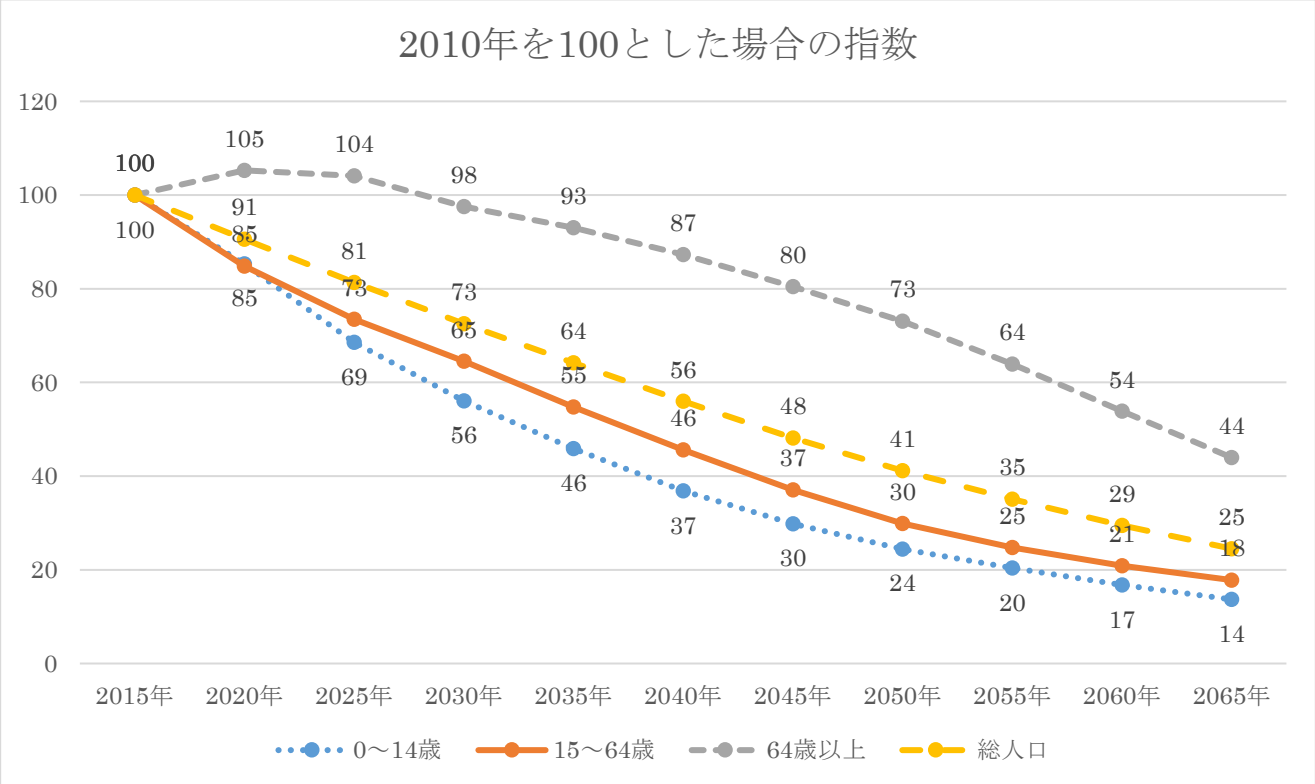
第１段階　：　老年人口増加＋生産年齢・年少人口減少

第２段階　：　老年人口維持・微減＋生産年齢・年少人口減少

第３段階　：　老年人口減少＋生産年齢・年少人口減少

えりも町は、2025 年までは老年人口が微増していますが、それ以降は、すべての年代で人口が減少する人口減少の第３段階といえます。

図 22　えりも町人口の減少段階（パターン１　社人研）



		2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
人数	0～14歳	687	586	471	385	315	253	205	168	140	115	94
	15～64歳	2,852	2,419	2,096	1,840	1,562	1,300	1,058	853	707	595	508
	64歳以上	1,367	1,439	1,423	1,333	1,272	1,193	1,100	999	874	736	601
	総人口	4,906	4,444	3,990	3,558	3,149	2,746	2,363	2,020	1,721	1,446	1,203
構成比	0～14歳	14%	13%	12%	11%	10%	9%	9%	8%	8%	8%	8%
	15～64歳	58%	54%	53%	52%	50%	47%	45%	42%	41%	41%	42%
	64歳以上	28%	32%	36%	37%	40%	43%	47%	49%	51%	51%	50%
	総人口	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

2045 年に、高齢者人口が生産年齢人口を上回り、高齢者人口が最も多い年代となります。また、2055 年には、人口の半数以上が高齢者になると推計されています。

③　社人研準拠推計に基づいたシュミレーション

人口ビジョンの策定にあたり、市町村が独自の将来人口推計を行う指針として、パターン１（社人研 H30 年推計準拠）をベースに、２つのシュミレーションを提示しています。

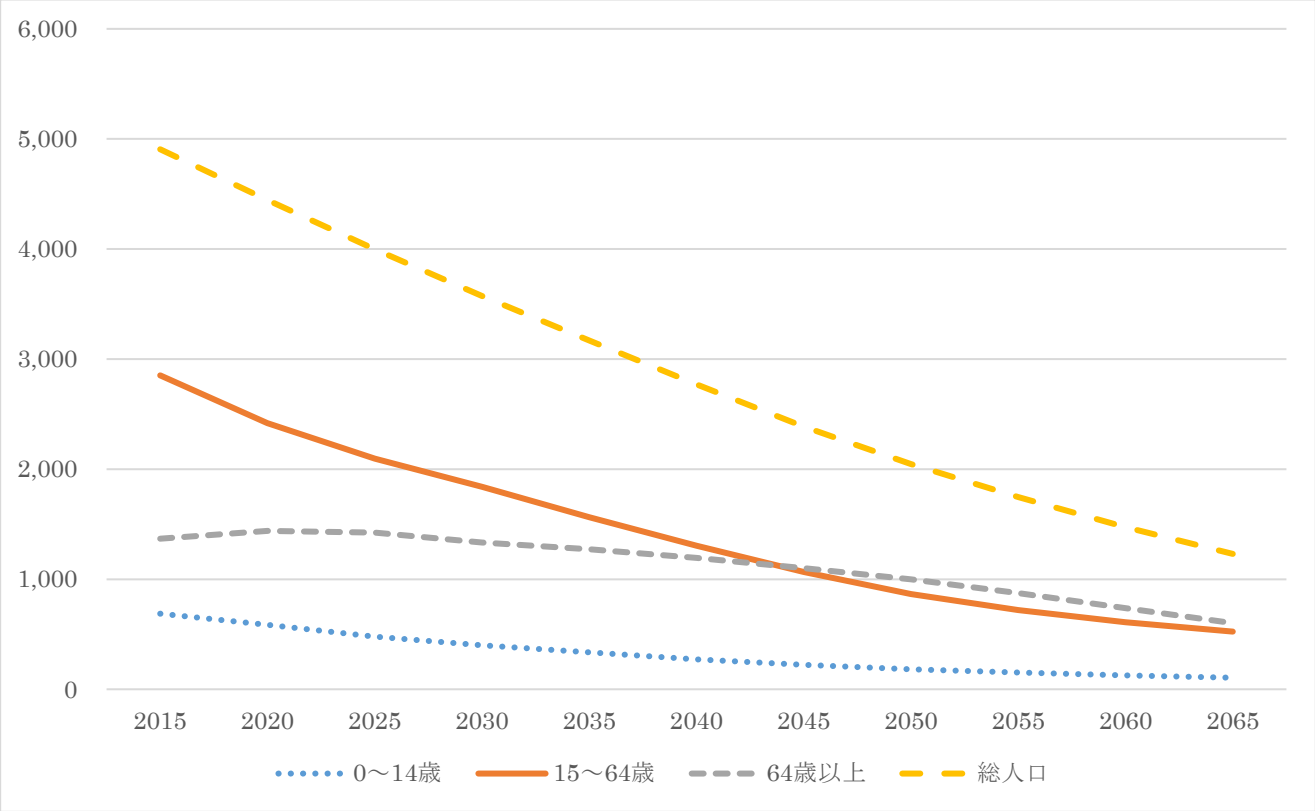
シュミレーション１：仮に、令和 12(2030)年までに、合計特殊出生率が人口置換水準の 2.1 まで上昇した場合のシュミレーション

シュミレーション２：仮に、令和 12(2030)年までに、合計特殊出生率が人口置換水準の 2.1 まで上昇し、かつ人口移動が均衡した場合のシュミレーション

※人口置換水準：人口を長期的に一定に保てる水準２.１

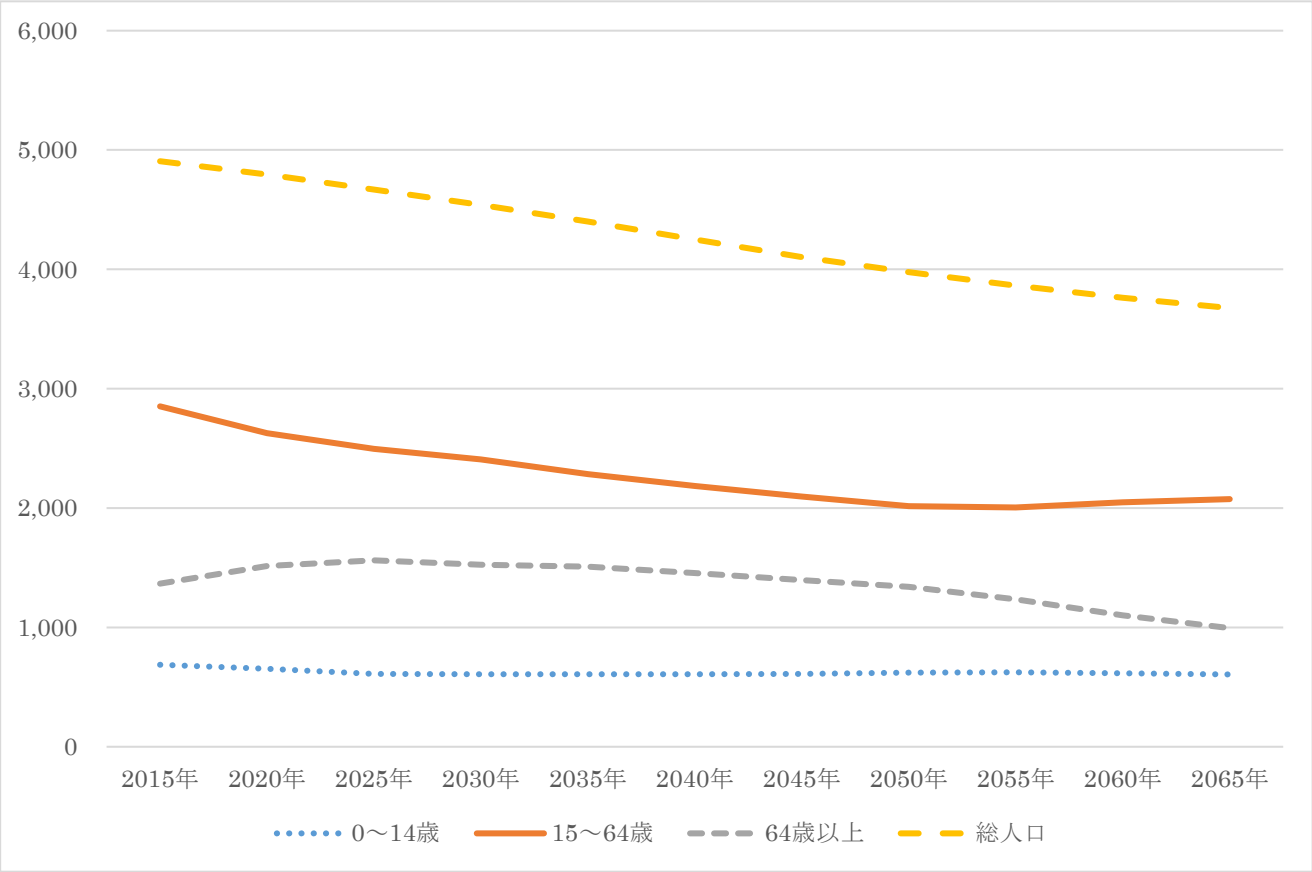
人口移動が均衡：転入・転出数が同数となり、移動がゼロとなった場合

図 23　「シュミレーション 1」年齢 3 区分別人口推計



	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
0～14歳	687	587	477	400	335	273	221	181	152	126	105
15～64歳	2,852	2,419	2,096	1,840	1,562	1,304	1,066	865	720	610	524
64歳以上	1,367	1,439	1,423	1,333	1,272	1,193	1,100	999	874	736	601
総人口	4,906	4,445	3,996	3,573	3,169	2,770	2,387	2,045	1,746	1,472	1,230

図 24　「シュミレーション 2」年齢 3 区分別人口推計



	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
0～14歳	687	653	611	607	609	607	611	621	625	615	606
15～64歳	2,852	2,628	2,495	2,408	2,284	2,186	2,096	2,016	2,005	2,047	2,076
64歳以上	1,367	1,514	1,562	1,525	1,508	1,456	1,397	1,339	1,235	1,100	994
総人口	4,906	4,795	4,668	4,540	4,401	4,249	4,104	3,976	3,865	3,762	3,676

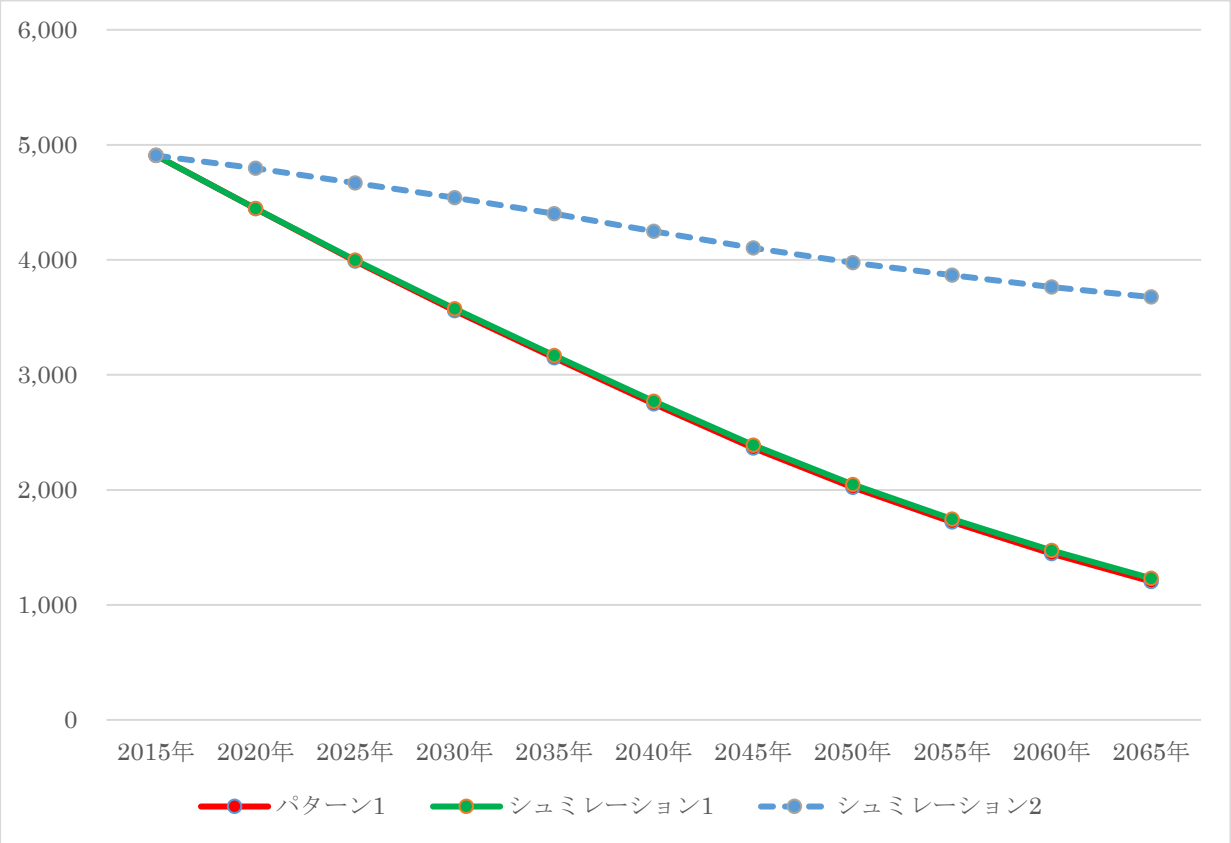
（２）将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響度の分析

①　総人口の分析

社人研推計準拠（パターン１）をベースに、シミュレーション１を行った場合、2065 年の人口は、合計特殊出生率が人口置換水準の 2.1 まで上昇しても、えりも町は合計特殊出生率がすでに高い（1.9）ことから、大きな変化は見られず 1,230 人です。しかし、シュミレーション２の人口移動が均衡すれば 3,676 人と大幅に増加すると推計されます。

社人研推計準拠（パターン１）と比較すると、（シミュレーション１）で 27 人、（シミュレーション２）で 2,473 人多くなると推計されます。

図 24　えりも町の将来人口推計



	パターン1	シュミレーション1	シュミレーション2
2015年	4,906	4,906	4,906
2020年	4,444	4,445	4,795
2025年	3,990	3,996	4,668
2030年	3,558	3,573	4,540
2035年	3,149	3,169	4,401
2040年	2,746	2,770	4,249
2045年	2,363	2,387	4,104
2050年	2,020	2,045	3,976
2055年	1,721	1,746	3,865
2060年	1,446	1,472	3,762
2065年	1,203	1,230	3,676

② 高齢者人口の変化（長期推計）

高齢者人口の割合は、パターン１、シュミレーション１では、2045 年まで上昇を続け、その後は減少すると推計されます。

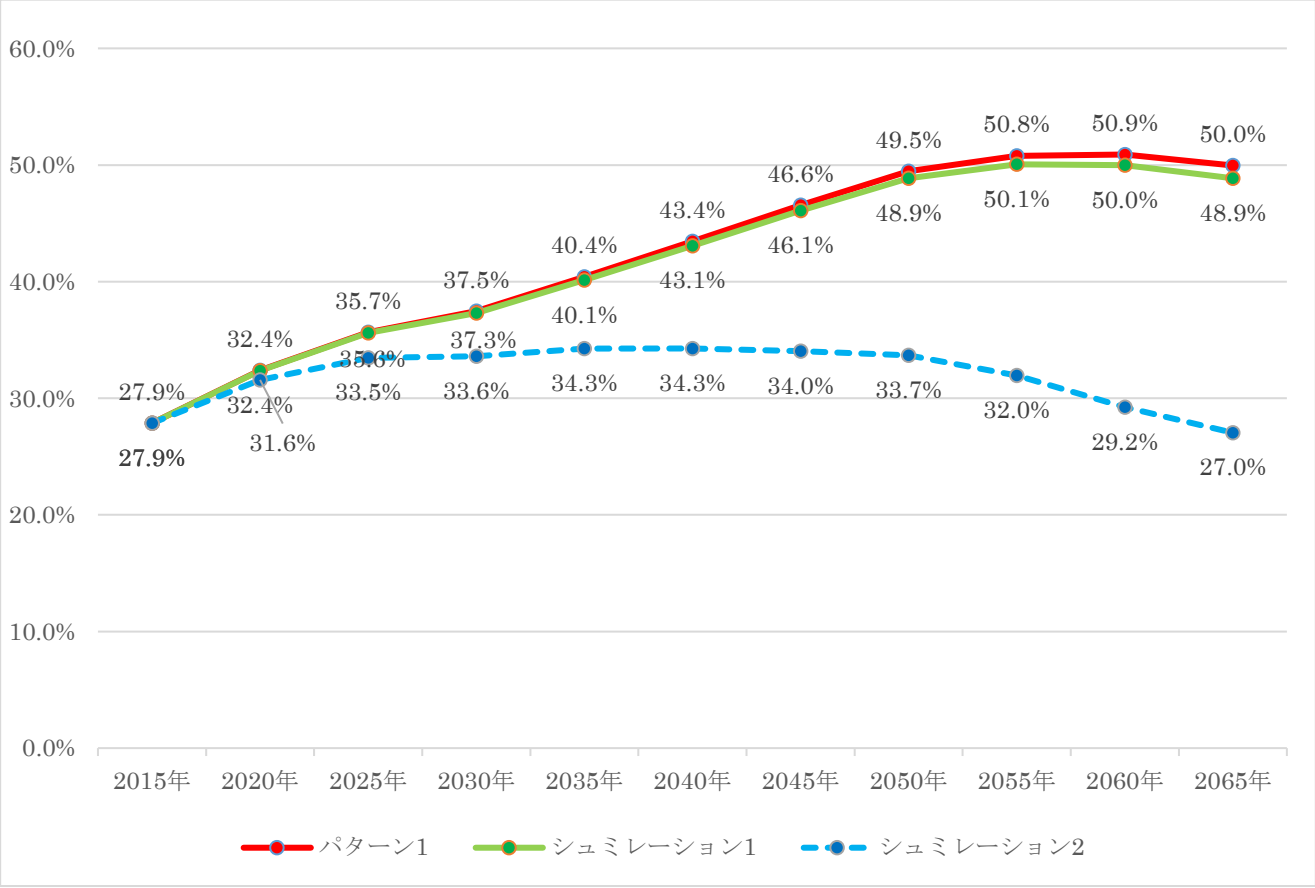
また、シミュレーション２では、2025 年まで緩やかに増加しますが、その後、横ばいが続き、2045 年ごろから減少し始めると推計されます。

2015 年から 2065 年までの高齢者人口比率

（パターン１及びシミュレーション１、２）

		2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
パターン1	65歳以上	27.9%	32.4%	35.7%	37.5%	40.4%	43.4%	46.6%	49.5%	50.8%	50.9%	50.0%
	75歳以上	14.4%	15.5%	18.5%	22.5%	25.2%	26.1%	27.9%	30.2%	33.1%	35.5%	35.8%
	65歳以上	1,367	1,439	1,423	1,333	1,272	1,193	1,100	999	874	736	601
	75歳以上	708	688	740	800	794	715	659	609	570	513	431
シュミレーション1	65歳以上	27.9%	32.4%	35.6%	37.3%	40.1%	43.1%	46.1%	48.9%	50.1%	50.0%	48.9%
	75歳以上	14.4%	15.5%	18.5%	22.4%	25.1%	25.8%	27.6%	29.8%	32.6%	34.9%	35.0%
	65歳以上	1,367	1,439	1,423	1,333	1,272	1,193	1,100	999	874	736	601
	75歳以上	708	688	740	800	794	715	659	609	570	513	431
シュミレーション2	65歳以上	27.9%	31.6%	33.5%	33.6%	34.3%	34.3%	34.0%	33.7%	32.0%	29.2%	27.0%
	75歳以上	14.4%	15.4%	17.8%	20.6%	21.9%	21.3%	21.1%	20.7%	20.6%	20.4%	18.8%
	65歳以上	1,367	1,514	1,562	1,525	1,508	1,456	1,397	1,339	1,235	1,100	994
	75歳以上	708	738	831	935	963	903	865	822	797	767	689

図 25　高齢者(65 歳以上)人口比率の長期推計（パターン１及びミュレーション１、２）



③　自然増減、社会増減の影響度の分析

国から提供された下記の手法によりえりも町の自然増減、社会増減の影響度を分析しました。

パターン 1 とシュミレーション 1 を比較することで、将来人口に及ぼす出生の影響度（自然増減の影響度）を分析することができます。

また、シュミレーション 1 とシュミレーション 2 を比較することで、将来人口に及ぼす移動の影響度（社会増減の影響度）を分析することができます。

自然増減、社会増減の影響度の分析方法

分類	計算方法	整理内容
自然増減の影響度	シミュレーション1の 2045 年の総人口／パターン1の 2045 年の総人口の数値に応じて 5 段階に整理。	「1」＝100%未満　「2」＝100～105% 「3」＝105～110%　「4」＝110～115% 「5」＝115%以上の増加
社会増減の影響度	シミュレーション2の 2045 年の総人口／シミュレーション1の 2045 年の総人口の数値に応じて 5 段階に整理。	「1」＝100%未満　「2」＝100～110% 「3」＝110～120%　「4」＝120～130% 「5」＝130%以上の増加

えりも町は、自然増減の影響度が「2」、社会増減の影響度が「5」となっており、自然増減の影響度よりも社会増減の影響度が高いと分析されており、人口の社会増をもたらす施策に取り組むことが、人口減少度合いを抑えること、さらには歯止めをかける上で効果的であると考えられます。

えりも町の自然増減、社会増減の影響度

分類	計算方法	影響度
自然増減の影響度	シミュレーション1の 2045 年の総人口＝2,387 人 パターン1の 2045 年の総人口＝2,363 人 ⇒　2,387 人／2,363 人＝101.0%	2
社会増減の影響度	シミュレーション2の 2045 年の総人口＝4,104 人 シミュレーション1の 2045 年の総人口＝2,363 人 ⇒　4,104 人／2,363 人＝173.7%	5

④　人口構造の分析

シミュレーションごとに、2015 年と 2045 年の人口増減率を算出いたしました。

年齢３区分ごとに見ると、「0-14 歳人口」の減少率は、シミュレーション１よりシミュレーション２の方が小さくなります。

「15-64 歳人口」と「65 歳以上人口」及び「20-39 歳女性人口」の減少率も、「0-14 歳人口」同様、シミュレーション１よりシミュレーション２の方が小さくなります。

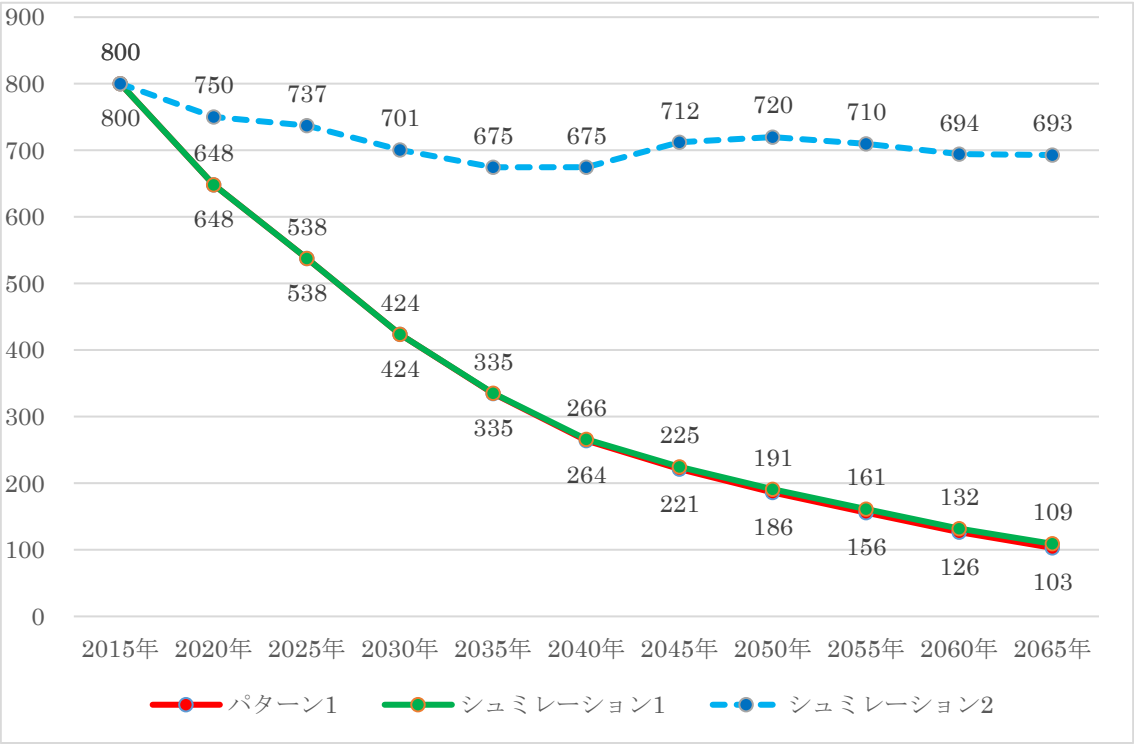
合計特殊出生率に影響する 15-49 歳までの女性人口は、シュミレーション１大きく減少しますが、シュミレーション２では 2030 年以降はほぼ横ばいです。

統計結果ごとの人口増減率

		総人口	0-14歳人口	うち0-4歳人口	15-64歳人口	65歳以上人口	20-39歳女性人口
2015年	現状値	4,906	687	210	2,852	1,367	424
2045年	パターン1	2,363	205	61	1,058	1,100	118
	シュミレーション1	2,387	221	66	1,066	1,100	119
	シュミレーション2	4,104	611	210	2,096	1,397	416
	パターン2	3,371	436	142	1,744	1,190	323

		総人口	0-14歳人口	うち0-4歳人口	15-64歳人口	65歳以上人口	20-39歳女性人口
2015年－2045年増減率	パターン1	－51.8%	－70.2%	－71.0%	－62.9%	－19.5%	－72.2%
	シュミレーション1	－51.3%	－67.8%	－68.6%	－63.6%	－19.5%	－71.9%
	シュミレーション2	－16.3%	－11.1%	0.0%	－26.5%	2.2%	－1.9%
	パターン2	－31.3%	－36.5%	－32.4%	－38.8%	－12.9%	－23.8%

図 26　15～49 歳までの女性人口推計



④　高齢者人口の変化（長期推計）

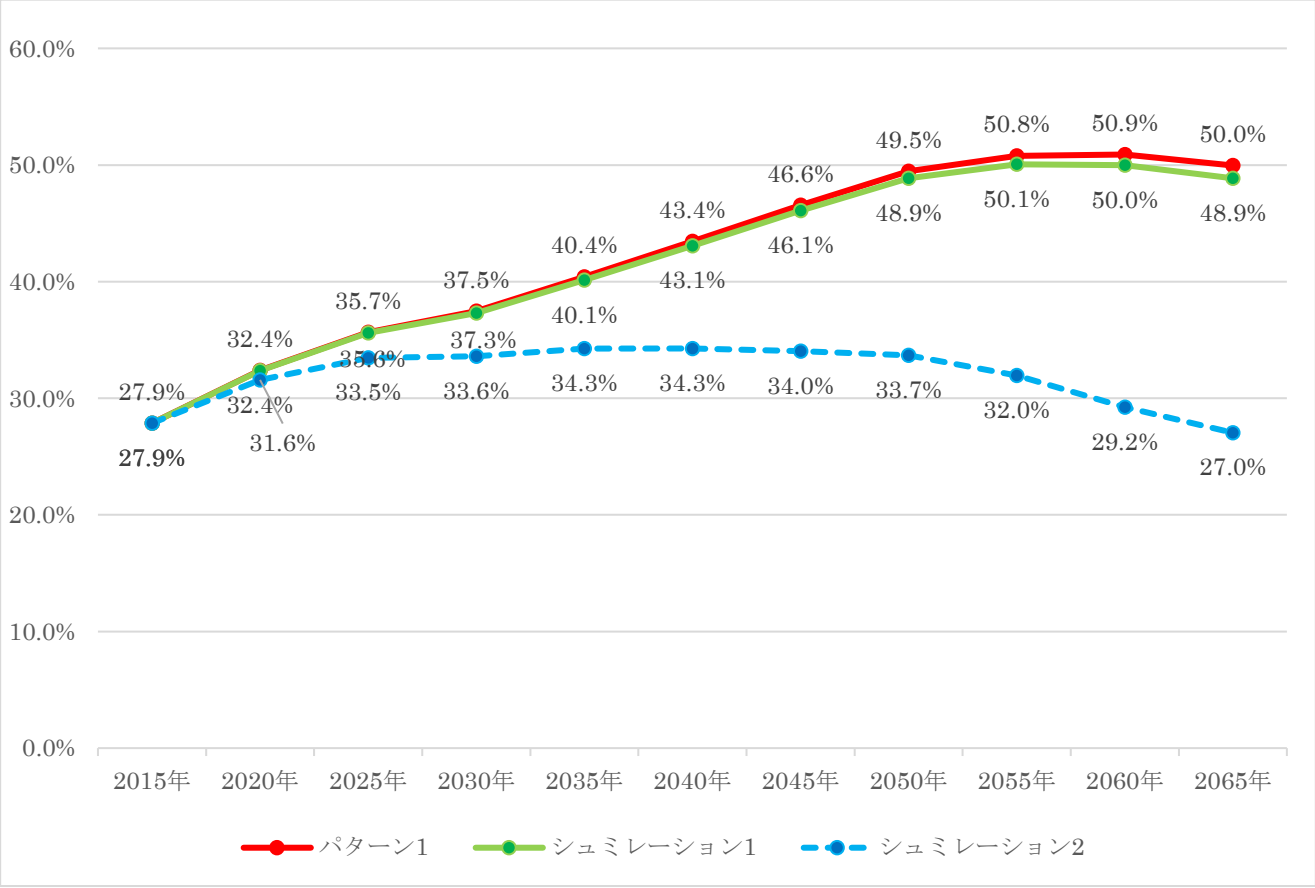
高齢者人口の割合は、パターン１、シュミレーション１では、2045 年まで上昇を続け、その後は減少すると推計されます。

また、シミュレーション２では、2025 年まで緩やかに増加しますが、その後、横ばいが続き、2045 年ごろから減少し始めると推計されます。

図　　2015 年から 2065 年までの高齢者人口比率
（パターン１及びシミュレーション１、２）

		2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
パターン1	65歳以上	27.9%	32.4%	35.7%	37.5%	40.4%	43.4%	46.6%	49.5%	50.8%	50.9%	50.0%
	75歳以上	14.4%	15.5%	18.5%	22.5%	25.2%	26.1%	27.9%	30.2%	33.1%	35.5%	35.8%
	65歳以上	1,367	1,439	1,423	1,333	1,272	1,193	1,100	999	874	736	601
	75歳以上	708	688	740	800	794	715	659	609	570	513	431
シュミレーション1	65歳以上	27.9%	32.4%	35.6%	37.3%	40.1%	43.1%	46.1%	48.9%	50.1%	50.0%	48.9%
	75歳以上	14.4%	15.5%	18.5%	22.4%	25.1%	25.8%	27.6%	29.8%	32.6%	34.9%	35.0%
	65歳以上	1,367	1,439	1,423	1,333	1,272	1,193	1,100	999	874	736	601
	75歳以上	708	688	740	800	794	715	659	609	570	513	431
シュミレーション2	65歳以上	27.9%	31.6%	33.5%	33.6%	34.3%	34.3%	34.0%	33.7%	32.0%	29.2%	27.0%
	75歳以上	14.4%	15.4%	17.8%	20.6%	21.9%	21.3%	21.1%	20.7%	20.6%	20.4%	18.8%
	65歳以上	1,367	1,514	1,562	1,525	1,508	1,456	1,397	1,339	1,235	1,100	994
	75歳以上	708	738	831	935	963	903	865	822	797	767	689

図 27　高齢者(65 歳以上)人口比率の長期推計（パターン１及びミュレーション１、２）



５．人口の将来展望

（１）人口の現状分析等のまとめ

えりも町の人口は、昭和 30 年（国勢調査）の 9,267 人をピークとして、微増となった昭和 50 年（7,777 人）を除き、減少を続けています。平成２７年の人口は、4,606 人と、この 60 年間で約５割減少しています。

減少の要因は、転出超過です。毎年、転出者が転入者を上回る社会減の状況が長期にわたっており、若者が進学・就職等で札幌市を中心とした都市部へ流出しているためと考えられます。

一方、自然増減については、平成７年までは出生数が死亡数を上回っていましたが、その後はほぼ均衡して推移してきましたが、平成 15 年以降は出生数が死亡数を下回り、自然減の状況となっています。

社人研の推計によると、えりも町の将来人口は前回の平成25年推計では2060年には2,625人まで減少すると見込まれていましたが、今回の平成 30 年推計では 2060 年には 1,446 人、2065 年には 1,203 人まで減少すると見込まれており、前回推計よりも大幅に速いペースで人口減少が進むと考えられます。

このままの状況を放置すると、就業者数の著しい減少による生産・消費の減少や、高齢者人口割合の増加による医療・介護費負担の増大、地域公共交通の縮小など、町民生活の様々な場面に大きな影響を及ぼすことが懸念されます。

（２）目指すべき将来の方向

自然豊かな海と大地こそが本町の誇れる優位性です。これを活かした漁業と観光を中心とした地場産業を守り育て次世代へとつなげることが、えりも町の持続的なまちづくりを可能とします。

そのために必要な人口規模の維持に向けて、あらゆる施策を展開しなければなりません。

人口減少対策として二つの方向性が考えられます。

一つは出生率の向上により人口構造の若返りを目指す方策と、二つ目は転出を抑制し、転入の増加を図る方法です。

本町は、合計特殊出生率が道内トップの水準にあるため、これまでは出生数が増えることによる自然増が人口減少対策に及ぼす効果は限定的でしたが、昨年の出生数が ８ 人と激減している状況ですので、長期間続く社会減の克服だけでなく、少子化対策も今後のまちづくりの重要な課題となっています。

このため、即効性のみに捉われることなく、長期展望に立った対策の展開が必要であり、各分野・各産業間の連動や連携といった横のつながりを持つことで、事業効果を上げる施策を構していくことが重要です。

そこで、次の４つの基本目標を定め人口減少対策に取組みます。

○基本目標１　まちに安定した雇用をつくる

地場産業の振興と担い手の育成、新たな雇用・起業支援

○基本目標２　まちに新たな人の流れをつくる

観光振興による交流人口の拡大、関係人口の創出・拡大

○基本目標３　結婚・出産・子育ての希望をかなえる

結婚・出産・子育てがしやすい環境の整備

○基本目標４　安心・安全で、住み続けたい魅力的なまちをつくる

地域防災力の向上、町民参加と協働の町づくり

国の第２期「総合戦略」における基本目標と２つの横断的な目標	
基本目標1	稼ぐ地域を作るとともに、安心して働けるようにする
基本目標2	地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる
基本目標3	結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本目標4	ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる
横断的な目標1	多様な人材の活躍を推進する
横断的な目標2	新しい時代の流れを力にする(Society 5.0の推進、SDGsの実現)

（３）人口の将来展望

「国の長期ビジョン」及び「目指すべき将来の方向」において提示した方向性を踏まえ、えりも町が目指すべき人口規模を展望します。

●合計特殊出生率の維持から上昇

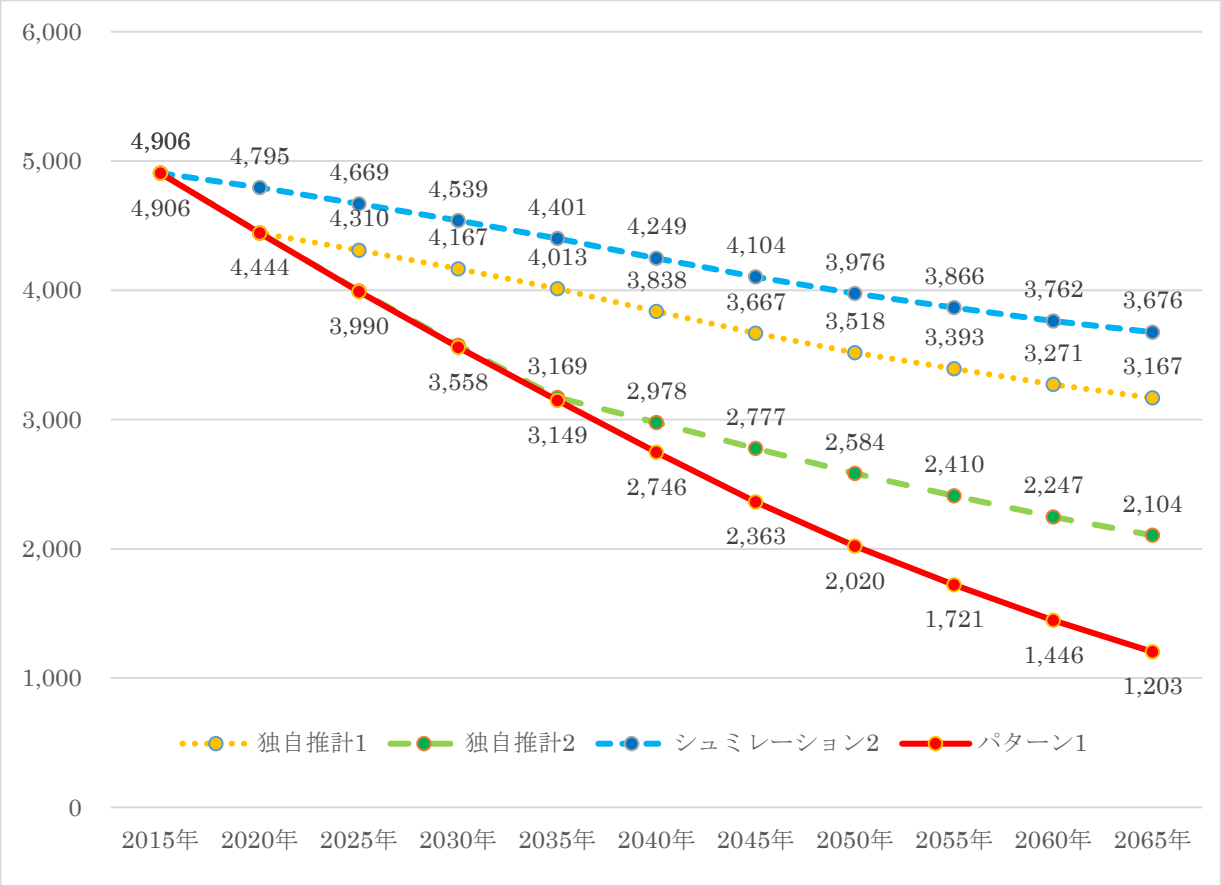
現在の 1.75 を 2030 年までに人口置換水準 2.10 まで上昇。

●人口移動の均衡

各種の施策により転出超過の状況を改善し、10 年後の 2025 年には転出数と転入数を同数（移動 0）にします。

	出生に関する仮定	移動に関する仮定
独自推計1	合計特殊出生率が2030年までに人口置換水準(2.1)まで上昇した場合のシュミレーション	2010年から2015年までの純移動率が、2025年までに均衡し、転出超過がゼロとなる。
独自推計2	合計特殊出生率が2030年までに人口置換水準(2.1)まで上昇した場合のシュミレーション	2010年から2015年までの純移動率が、2035年までに均衡し、転出超過がゼロとなる。
シュミレーション2	合計特殊出生率が2030年までに人口置換水準(2.1)まで上昇した場合のシュミレーション	直ちに純移動率が均衡し、転出超過がゼロとなる。
パターン1 （社人研推計）	子ども(0～4歳人口）と女性(15～49歳女性人口)の比が、2015年の状況がそのまま一定と仮定（出生率の代替指標）	2010～2015年の純移動率が2045年まで継続すると仮定。

図 28　人口の将来展望



	独自推計1	独自推計2	シュミレーション2	パターン1
2015年	4,906	4,906	4,906	4,906
2020年	4,444	4,444	4,795	4,444
2025年	4,310	3,996	4,669	3,990
2030年	4,167	3,573	4,539	3,558
2035年	4,013	3,169	4,401	3,149
2040年	3,838	2,978	4,249	2,746
2045年	3,667	2,777	4,104	2,363
2050年	3,518	2,584	3,976	2,020
2055年	3,393	2,410	3,866	1,721
2060年	3,271	2,247	3,762	1,446
2065年	3,167	2,104	3,676	1,203

2045 年時点で 3,667 人の人口を目指します

2065 年時点で 3,167 人の人口を目指します

第２期えりも町まち・ひと・しごと創生
人口ビジョン

令和３年３月

えりも町企画課振興係
〒058-0292　北海道幌泉郡えりも町字本町 206 番地
電話 01466-2-4612　FAX01466-2-4633
E-mail：erimo-kikaku@town.erimo.lg.jp
https://www.town.erimo.lg.jp/